



# サイエンスアゴラ 2013



## 開催報告書

## ■開催趣旨

サイエンスアゴラは、「科学と社会をつなぐ科学コミュニケーション実践のための広場“アゴラ”」として、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントです。多様な科学コミュニケーション活動の見本市の役割を果たしています。科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ智を創り出すことに貢献します。

## ■開催方針

第3期科学技術基本計画(平成18-22年度)に「国民に支持される科学技術」、「科学技術のコミュニケーション促進」がうたわれ、2006年にサイエンスアゴラは開始されました。東日本大震災を経験し策定された第4期科学技術基本計画(平成23-27年度)では「国民の視点に基づく科学技術イノベーション政策の推進」、「科学技術コミュニケーション活動の推進」が記載されました。

科学技術振興機構では第4期科学技術基本計画を受けて平成23年、科学コミュニケーションセンターを設立し、一般の人々にとって本当に役立つコミュニケーションとは何か、全国各地域における自律的な活動の活性化を促進させるにはどうしたらよいかを、これまでより深く追及しています。そして、前回のサイエンスアゴラ2012からは、下記の2点を開催方針として打ち出しました。

### (1)「伝える」とともに「つくる」へ広げる

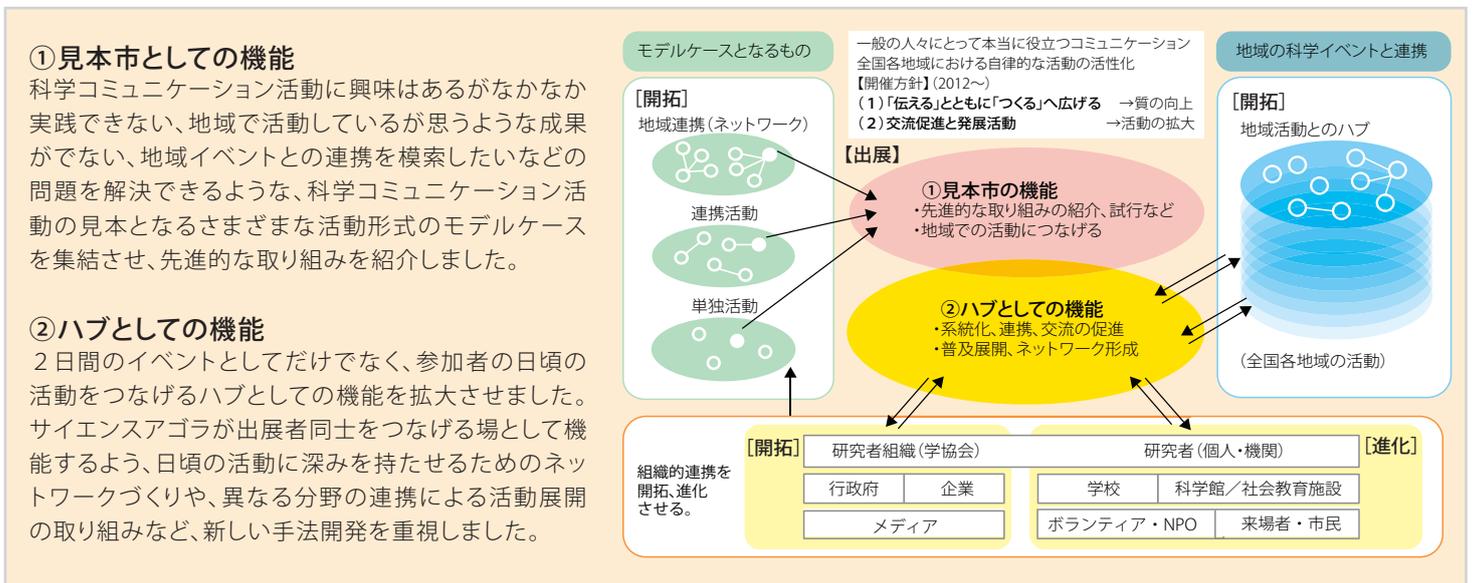
実験・工作教室などの科学の知識や楽しさを「伝える」ためのコミュニケーションをはかります。加えて、科学についての対話や議論を行うことで、よりよい将来社会をともに「つくる」ためのコミュニケーションも広げていきます。

※ 科学コミュニケーションセンターでの「伝える」、「つくる」の議論については、科学コミュニケーションセンターのWebサイト (<http://www.jst.go.jp/csc/about/>) をご参照ください。

### (2) 交流促進と発展活動

多様な科学コミュニケーション活動が集結するサイエンスアゴラでの交流から、新たな連携が生まれ、全国各地域で科学コミュニケーションが活性化することにつながります。

サイエンスアゴラ2013では、この方針のもとに下記の2つの機能に重点を置きました。



## ■サイエンスアゴラ推進委員会

関係機関、外部機関メンバーによる「サイエンスアゴラ推進委員会」を設置し、全体の活動を次のように分類、推進しました。

- [1] 公募企画の審査やサイエンスアゴラ賞の選考
- [2] 出展企画のプロデュースやコーディネート
- [3] 会場連携機関や開催地区との連携
- [4] そのほか、サイエンスアゴラ2013全体を俯瞰した活動

### サイエンスアゴラ推進委員会委員

委員長	北原和夫	東京理科大学 教授
委員	縣秀彦	国立天文台天文情報センター普及室長
委員	伊藤日出男	独立行政法人産業技術総合研究所 臨海副都心センター 所長代理
委員	宇津井隆	株式会社フジテレビジョン 事業局次長兼 事業部長
委員	北川浩二	パナソニック株式会社 パナソニックセンター東京 企画チーム リーダー

## 開催結果

名称：サイエンスアゴラ2013

会期：平成25年11月9日(土)、10日(日)

会場：日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター、東京都立産業技術研究センター、東京国際交流館、シンボルプロムナード公園、フジテレビ湾岸スタジオ

主催：独立行政法人科学技術振興機構

共催：日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、独立行政法人日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ、内閣府(科学技術政策・イノベーション担当)

協力：株式会社フジテレビジョン

### 参加者数

計8,500人

	11/9(土)	11/10(日)	計
来場者数	2,266 ※1	3,530 ※1・2	5,796
出展者数	2,704 ※3		2,704

### 出展団体数

計212団体

### プログラム数

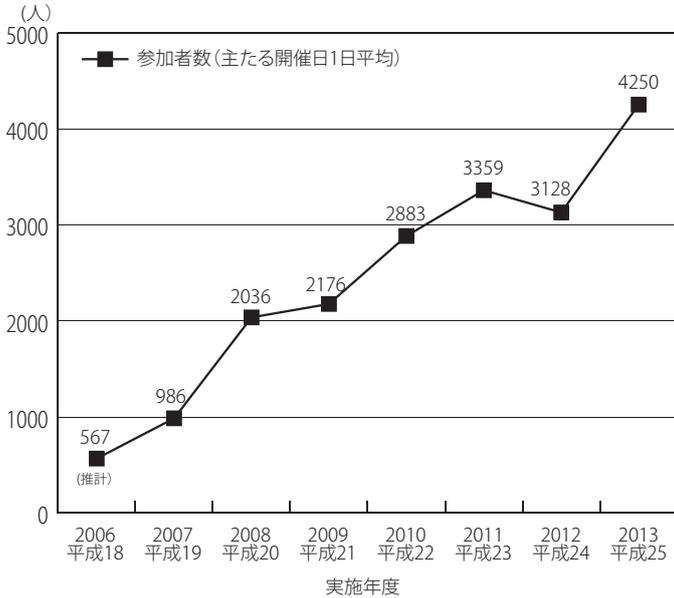
計232プログラム

※1 来場者カード配布数

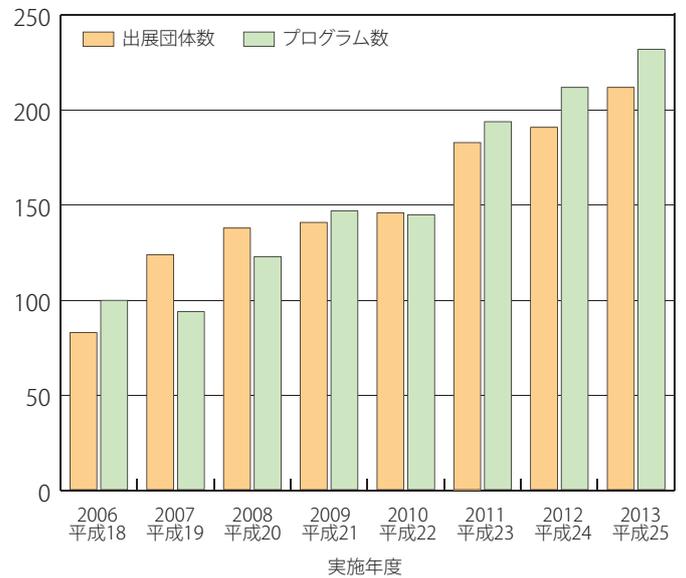
※2 11/9、10(土・日)両日来場の168人を含むのべ人数

※3 出展者バッジ配布数

### 過去7年間の参加者数



### 過去7年間の出展団体数・プログラム数



委員	小泉周	自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授
委員	小出重幸	日本科学技術ジャーナリスト会議会長、科学ジャーナリスト
委員	佐々義子	特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21 常務理事・主席研究員
委員	高梨直紘	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 特任助教
委員	高安礼士	千葉市科学館 教育アドバイザー

委員	長澤友香	静岡科学館 館長
委員	中島秀人	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授
委員	春山賢男	埼玉県教育局県立学校部 部長
委員	美馬のゆり	公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授
委員	山口祐一	東京都港湾局 営業担当部長

■ 広告・制作物

ホームページ・Facebook・Twitter

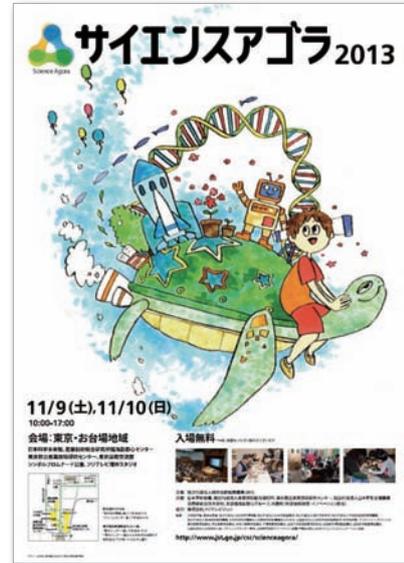
<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>



Facebook URL(agoraGroups)  
<https://www.facebook.com/groups/scienceAGORA/>  
 Twitterアカウント @ScienceAgora

ポスター

会場周辺の小中学校、科学館等に配布(1,000部)



広告用チラシ(A4)

会場周辺(東京都大田区、江東区、品川区、中央区、港区)の小中学校、科学館等に配布(10万部)



▲表紙



▲裏(一般・学生・研究者・サイエンスコミュニケーター向け)



▲裏(親子連れ・教員向け)

プログラム(A4)

開催当日、受付にて配布



▲会場案内パンフレット(表紙)

小冊子



▲「伝える」から「つくる」へ サイエンスアゴラ2013のしおり

# ■主な掲載・放送(新聞記事・情報紙・ウェブサイトなど)



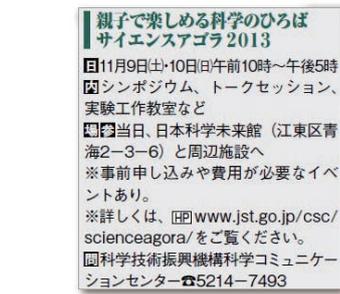
**サイエンスアゴラ2013**  
楽しむ、考える、共有する、多彩なイベント  
11/9(土)、11/10(日)  
10:00-17:00 入場無料  
会場: 東京・お台場地域 日本科学未来館(江東区豊洲)

▲毎日新聞(11月8日朝刊)



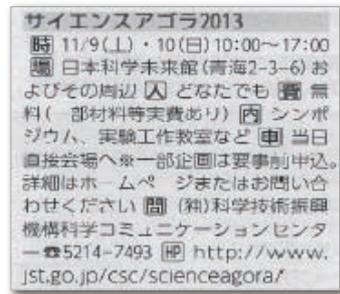
**サイエンスアゴラ**  
「サイエンスを通してみんなが広がる広場(アゴラ)」をテーマとしたイベント「サイエンスアゴラ」を11月9日(土)、10日(日)の2日、日本科学未来館で開催されます。

▲理科教育ニュース(11月8日)



**親子で楽しめる科学のひろば サイエンスアゴラ2013**  
11月9日(土)・10日(日)午前10時～午後5時  
シンポジウム、トークセッション、実験ワークショップなど  
11月9日、日本科学未来館(江東区青海2-3-6)と周辺施設へ  
※事前申し込みや費用が必要なイベントあり。

▲品川区区報(11月1日)



**サイエンスアゴラ2013**  
時 11/9(土)・10(日)10:00～17:00  
場 日本科学未来館(青海2-3-6)およびその周辺(入)どなたでも(無)無料(一部材料等実費あり) (有)シンポジウム、実験ワークショップなど (有)当日直接会場へ参加一部企画は要事前申込  
詳細はホームページまたはお問い合わせください (有)科学技術振興機構科学コミュニケーションセンター ☎5214-7493 http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/

▲江東区区報(11月1日)



**Newton**  
情勢判断・意思決定の数学  
統計の威力  
データマイニングからビッグデータまで  
アイソトープ量が増える! 12  
12月号



▲Newton(12月号)

**科学と社会をむすぶひろば「サイエンスアゴラ2013」**  
科学コミュニケーションを支援する複合的な科学イベント「サイエンスアゴラ」。子どもから一般市民や専門家でさまざまな立場の人たちが集い、科学への理解や楽しみを伝えるとともに、豊かな社会をつくるためのコミュニケーションを広げていきます。

- 日時: 11月9日(土)～10日(日) 10:00～17:00
- 会場: 日本科学未来館とその周辺施設(要事前申込)
- URL: <http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>
- 参加費: 無料(一部企画で材料などの実費が必要)
- 参加方法は原則として当日参加自由(一部、事前に参加登録を要する企画あり)
- お問い合わせ先: 独立行政法人科学技術振興機構科学コミュニケーションセンター  
Tel: 03-5214-7493  
E-mail: [agora@jst.go.jp](mailto:agora@jst.go.jp)



**現代化学** 11  
CHEMISTRY TODAY 2013  
3次元の結晶・材料を自在につくる  
特集: 3Dプリンターの可能性  
有機ELの耐久性はどこまで上がるのか  
アノード付リチウムイオン電池

◀現代化学(11月号)

**サイエンスアゴラ2013開催**  
サイエンスアゴラは、サイエンスを通してみんなが広がる「ひろば」です。サイエンスの専門家はもちろん、あらゆる立場の人たちが参加する多彩なイベントです。子ども、市民、企業、専門家やサイエンスショー、実証実験を共有するワークショップやシンポジウムなどの企画が同時開催されます。本誌連載「結晶芸術展」の模様

会場: 「マイクロフロンタージュ」ねこのてくくる亭  
日程: 2013年11月9日(土)、10日(日)  
会場: 日本科学未来館、産業技術総合研究所基礎部創成センター、東京国立産業技術研究センターなど(東京・お台場地域)  
※詳細はホームページ(<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>)をご覧ください



**サイエンスアゴラ2013**  
日本科学未来館と周辺施設がシンポジウム・トークセッション・ワークショップ・シンポジウムなど200超の企画を準備しました。11月9日(土)、10日(日)の2日間、お台場地域(江東区)に開催されます。

▲Yahoo!ロコ  
<http://loco.yahoo.co.jp/>



**サイエンスアゴラ2013**  
開催日時: 11月9日(土)～10日(日) 10:00～17:00  
会場: 日本科学未来館(江東区豊洲)とその周辺施設(要事前申込)

▲Walkerplus  
<http://www.walkerplus.com/>



**サイエンスアゴラ**  
11月9日(土)・10日(日) 10:00～17:00  
会場: 日本科学未来館(江東区豊洲)とその周辺施設(要事前申込)

▲地球の歩き方[日本の歩き方]  
<http://japan.arukikata.co.jp/>



**サイエンスアゴラ2013**  
11月9日(土)・10日(日) 10:00～17:00  
会場: 日本科学未来館(江東区豊洲)とその周辺施設(要事前申込)

▲サイエンスポータル  
<http://scienceportal.jp/>



**サイエンスアゴラ**  
11月9日(土)・10日(日) 10:00～17:00  
会場: 日本科学未来館(江東区豊洲)とその周辺施設(要事前申込)

▲えきねっと(JR東日本)  
<http://www.eki-net.com/>



**サイエンスアゴラ**  
11月9日(土)・10日(日) 10:00～17:00  
会場: 日本科学未来館(江東区豊洲)とその周辺施設(要事前申込)

▲じゃらん  
<http://www.jalan.net/>

## ■来場者アンケート結果

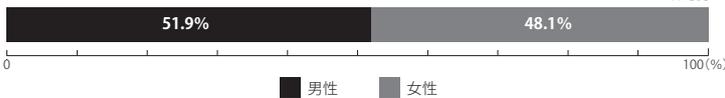
調査方法：全来場者を対象に受付にてアンケート用紙を配布。会場で回収。  
 調査期間：2013年11月9日(土)、10日(日)  
 回答数：610(対象者数5,628人、回収率10.8%)

### 設問 「あなたについて教えてください。」

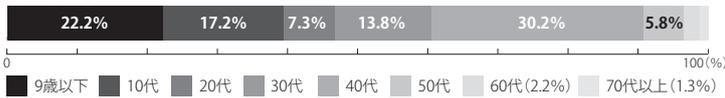
#### ①「サイエンスアゴラへの来場は…」



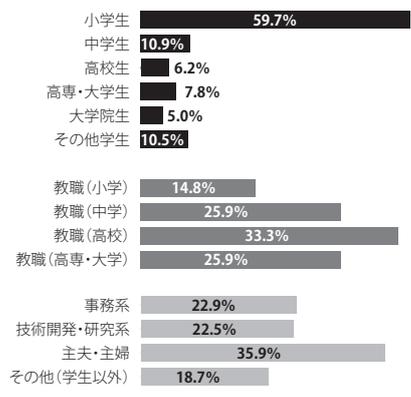
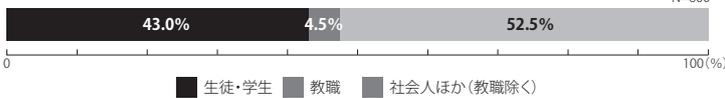
#### ②「性別」



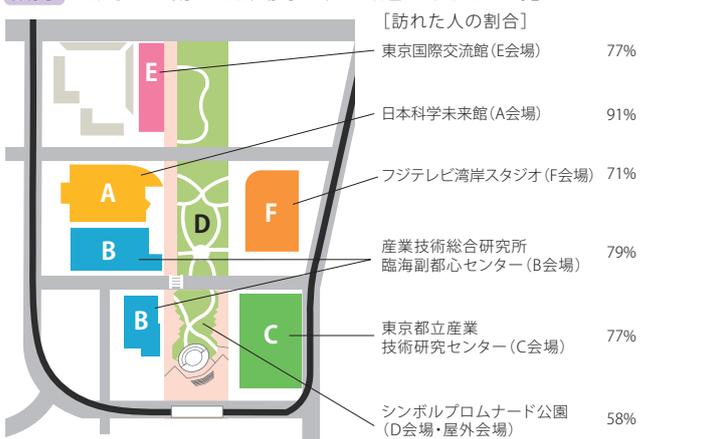
#### ③「年齢」



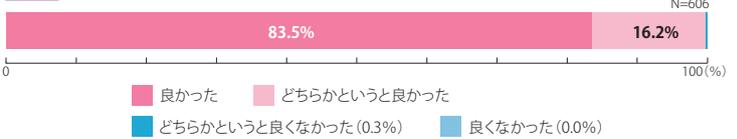
#### ④「職業」



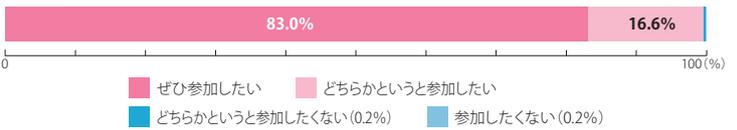
### 設問 「あなたが訪れた会場等をすべて選んでください。」



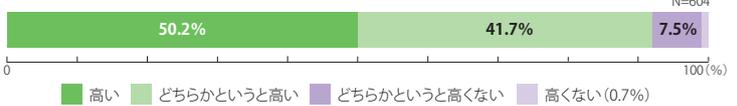
### 設問 「あなたの今日の感想を教えてください」



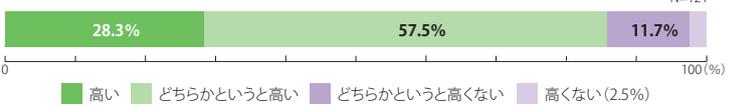
### 設問 「このようなイベントにまた参加したいと思いますか？」



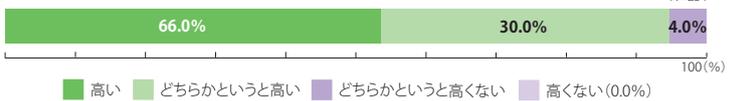
### 設問 「あなたの自然や科学技術への興味や関心の程度をお聞かせください。」



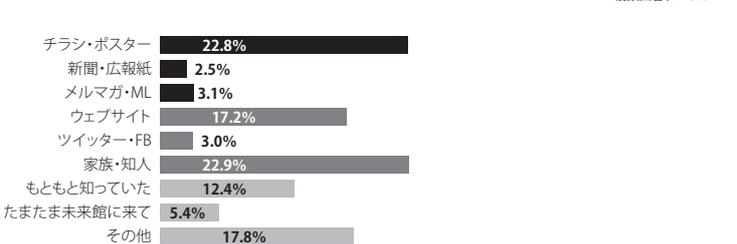
### i「あなたはあえて選ぶとすれば文系」



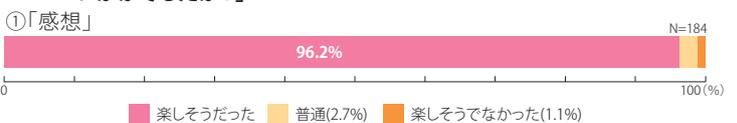
### ii「あなたはあえて選ぶとすれば理系」



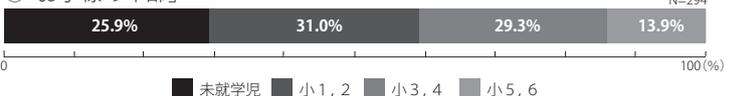
### 設問 「あなたはサイエンスアゴラ2013をどこで知りましたか？あてはまるものをすべて選んでください。」



### 設問 「【小学生以下のお子様をお連れの方のみ】お子様のご様子はいかがでしたか？」



### ②「お子様の年齢」



## ■出展者アンケート結果

出展者アンケート結果

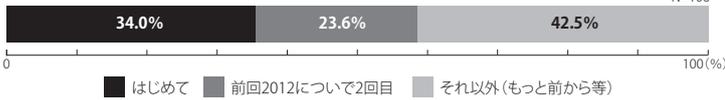
調査方法：全出展者を対象にオンラインフォームから回答受付。

調査期間：2013年11月15日(金)～26日(月)

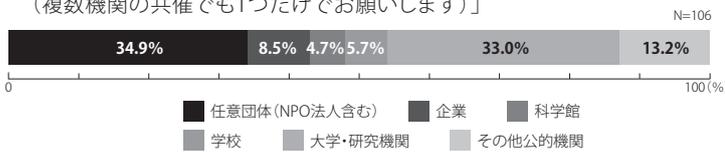
回答数：106

### 設問 「あなたについて教えてください。」

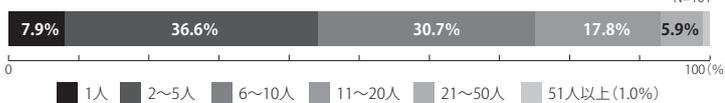
①「サイエンスアゴラへのご出展は…」



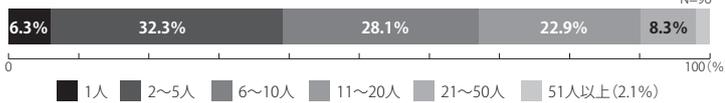
②「ご出展主催者の分類として適切なものを1つだけ選んでください。(複数機関の共催でも1つだけをお願いします)」



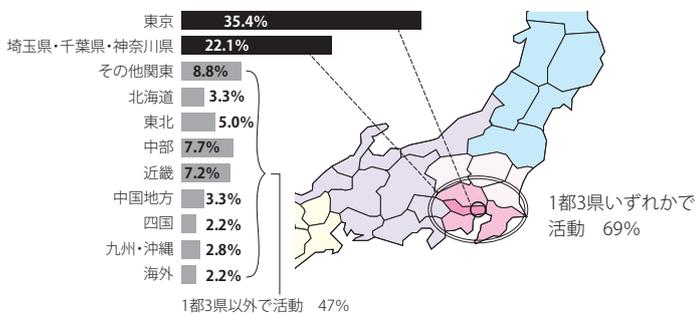
③「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。ー当日実働人数」



④「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。ー準備を含めた全人数」



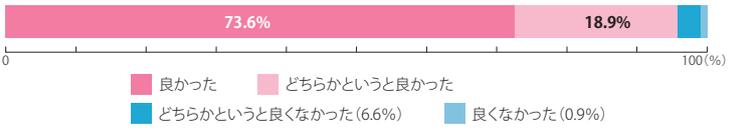
⑤「あなたが普段主に活動する地域をすべて選んでください。」 複数回答、N=106



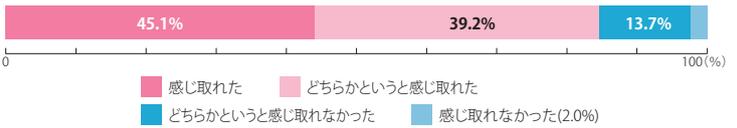
### 次回出展・参加者へのメッセージ

- ・アゴラに集えば、だれもが科学の楽しさを共有して参加者や出展者とつながります。年に一度の素晴らしいお楽しみ!
- ・自身の取り組みを通して他のサイエンスコミュニケーション実践者と交流が持てる機会なので、特に若い人は参加してほしいです。
- ・お客様とのやり取りが楽しめる場所。それがサイエンスアゴラです。お客様に教えてもらい、出展者自身が笑顔になれる場に、ぜひ参加してください!

### 設問 「あなたのサイエンスアゴラ2013への感想を教えてください。」



### 設問 「あなたは、サイエンスアゴラ2013の全体テーマの精神がイベント全体から感じ取れましたか？」

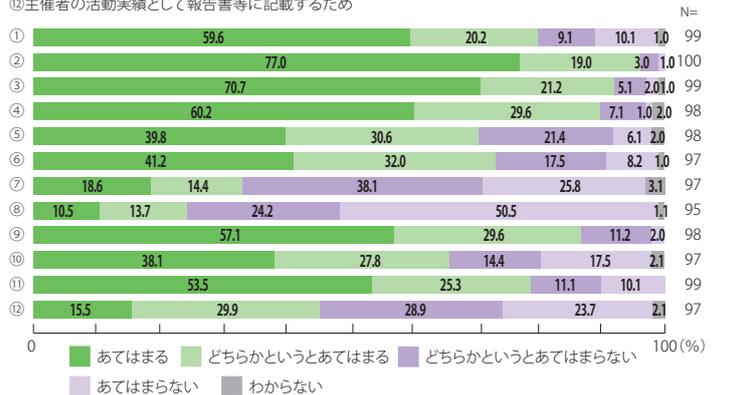


### 設問 「あなたは、今後の活動につながる新しいネットワークを構築できたと感じ取れましたか？」



### 設問 「あなたがサイエンスアゴラ2013に出展した目的・動機を教えてください。」

- ①多様な出展者と出会うため
- ②多様な来場者と出会うため
- ③サイエンスを楽しむ・楽しんでもらうため
- ④サイエンスを学ぶ・学んでもらうため
- ⑤広くサイエンスと社会との関係について考えたり語り合ったりするため
- ⑥サイエンスコミュニケーションのスキルアップ・ノウハウ共有のため
- ⑦サイエンスコミュニケーション人材の発見・発掘のため
- ⑧ビジネスにつなげるため
- ⑨理科教育・科学教育につなげるため
- ⑩研究成果を多くの人々に知ってもらうため
- ⑪主催者のふだんの活動を知ってもらうため
- ⑫主催者の活動実績として報告書等に記載するため



その他の目的・動機

- ・青少年(中学生)に最先端の研究に触れてもらうため
- ・科学部の活動の発表の場として、生徒に充実感・達成感を持たせ、励ますため
- ・子どもの理系の才能育成の取り組み状況を関係者と共有するため

アンケートより抜粋

### 設問 「出展した目的は、振り返ってみてどの程度達成されたと思いますか？」



…その他フリーコメントは30・31ページへ

## ■主催企画

プレゼンテーションの名手が登壇して新たな科学技術の伝え方を探索するシンポジウムや、科学技術をめぐるさまざまな課題をみんなで話し合うワークショップなど、「伝えるコミュニケーション」と「つくるコミュニケーション」の場を提供しました。



イラスト:川本恵心

## ■みんなでつくる7連続ワークショップ

フューチャーセッションやグラフィックファシリテーションなど、豊かで多様な対話の場を堪能してもらうために、日本科学未来館7階イノベーションホールにおいて、次の7つのワークショップ(WS)を実施しました。

### WS1

つくるコミュニケーション「最上の問い」セッション(サイエンスアゴラ2013 開幕セッション) [Ab-604](#)

### WS2

つくるコミュニケーション「自分ゴトの問い」セッション [Ab-605](#)

専門家にとって(WS1)、そして市民にとって(WS2)の「つくるコミュニケーション」をフューチャーセッション(最適解のない複雑な問題を解決するために、企業・行政・NPOなどのセクターの壁、組織内の部署の壁、専門分野の壁など、立場の違いを超えた対話により、協調アクションを生み出す場)によって実践しました。

ファシリテーション:株式会社 フューチャーセッションズ

### WS3

ポスト3・11の科学コミュニケーションを問う [Ab-606](#)

科学コミュニケーションに何ができるのか?何をすべきなのか?東日本大震災は科学コミュニケーションのあり方をめぐってさまざまな課題をつきつきました。震災を経て今私たちは科学コミュニケーションをどう考えるべきかについて議論しました。

後援:科学技術社会論学会

登壇者:中村征樹(大阪大学准教授)、田中幹人(早稲田大学 准教授)、渡部麻衣子(日本学術振興会 特別研究員)

### WS4

サイエンスアゴラのみらい(サイエンスアゴラ出展者限定) [Ab-619](#)

2013年で8回目になるサイエンスアゴラ。継続的な開催を視野にサイエンスアゴラの課題を明らかにし、果たすべき役割を長期的な視点で考えました。

ファシリテーション:株式会社黒崎事務所、グラフィックファシリテーター:やまぎきゆにこ

### WS5

科学屋台 ~直接科学に会いにいこう~ [Ab-654](#)

科学研究において、何を面白いと思ひ、どのような成果を期待し、科学の発展に何ができるのか。研究者と市民がそれぞれの立場から一緒に考える機会を提供しました。

主催:「つくる、つながる、つかう」プロジェクト、JST CSC

共催:総合研究大学院大学 学融合推進センター

登壇者:皆越ようせい(土壌動物フォトグラファー/日本土壌動物学会 会員)、中村敏和(自然科学研究機構 分子科学研究所 准教授)、島谷健一郎(統計数理研究所 准教授)、本多 史朗(公益財団法人 助成財団センター)

### WS6

情報の救急箱としてのミドルメディアは可能か [Ab-655](#)

福島第一原発事故がもたらした、科学と社会の軋轢を検討するために開催した過去2回のシンポジウムの中で見えてきた課題の検討と今後の展望を話し合いました。

主催:ミドルメディア実行委員会、JST CSC

登壇者:渡辺政隆(JST CSCフェロー/筑波大学 教授)

### WS7

のぞくかがく~あなたの見てない、いつもの世界~ [Ab-656](#)

科学者の見ている世界と、自分(参加者)がいつも見ている世界を、見るという行為に特化したツールを通じて意識化させ、お互いの見ている世界の限定性と多様性を発見してもらいました。

主催:総合研究大学院大学 学融合推進センター、JST CSC

登壇者:郡和範(高エネルギー加速器研究機構)



### WS1 つくるコミュニケーション「最上の問い」セッション

### WS2 つくるコミュニケーション「自分ゴトの問い」セッション

WS1は、超一線級の専門家による、「最上の問い」を生み出すセッションです。各専門家が挙げる課題に対して、異分野の専門家が「なぜ」を問いかけ、課題そのものを本質に近づけていきます。生み出された問いは、継続的な対話のテーマとして据えられていきます。大学研究者、政策担当者、企業などから専門家を中心に、64名が参加しました。

WS2は、多様性ある社会問題に挑む市民による、本音の問題提起セッションです。ニッチで深い問題を多数取り上げ、それら問題間の関係性を検証したり、問題と問題の間にある別の問題を発見したりします。このような「自分ゴトの問い」

セッションを継続して行うことで、誰かが強い想いを持った自分ごとの社会問題を集め、一覧化していきます。大学の専門家に加え、NPOや社会起業家など問題意識の高い参加者、64人で進めました。

WS1では社会問題と科学の接点を検討され、8つの「最上の問い」が生み出されました。WS2では社会問題と、その問題に関わってほしいステークホルダーが検討され、8つの「自分ゴトの問い」が生み出されました。今後このようなセッションを継続して実施し、問いのアーカイブにしていくことができればと思います。

## WS4 サイエンスアゴラのみらい

サイエンスアゴラの出展者同士で「サイエンスアゴラらっしゃってなんだろう」とか「こんなサイエンスアゴラになると良いな」といったことについて意見交換を行いました。「もっと人との交流をしたい」「もっと他の出展者のやり方を見たい」など、出展者であると同時に「お客さん」としてサイエンスアゴラを楽しみたい、といった、出展目的と期待に係る意見が多く出ました。やまざきゆにこさんによるグラフィックファシリテーションも行われ、一般のものとはひと味違った雰囲気の中、楽しいワークショップとなりました。



## ■シンポジウム

### Ab-652 「科学技術のあたらしい伝え方」シンポジウム

科学技術を楽しむ、わかりやすく、かつよく伝えることに長けた4人のプレゼンターを迎え、それぞれの持ち味を活かしたプレゼンテーションを行った後、科学技術のあたらしい伝えかたについて話し合いました。短い時間でたくさんのトピックを話し、研究活動の全体像を提示する「研究100連発」、ファラデー以来の伝統をもつクリスマス・レクチャー、スマホ顕微鏡を素材にしたベテラン研究者の名人芸、全世界を席巻するTEDスタイルに、来場者もニコニコ生放送の視聴者も夢中になりました。



プレゼンター：福地 健太郎(ニコニコ学会β、明治大学 准教授) 「研究100連発」  
齊田 智明(ブリティッシュ・カウンシル プロジェクトマネージャー)「英国クリスマス・レクチャーにみるサイエンス・コミュニケーションー主催者からみた問題点と解決法」  
永山 國昭(生理学研究所 特任教授、英国王立研究所 金曜講話演者) 「スマホ顕微鏡がひらくマイクロ世界」  
Patrick Newell(TEDxTokyo co-founder) 「How to make 1+1=11」  
ファシリテーター：佐倉 統(JST CSC フェロー、東京大学大学院 教授)

### Ab-950 科学技術の智：分野を超えて新しい価値観をつくる

「科学技術の智」プロジェクトにおいて、科学技術リテラシー像として日本人が身に付けるべき科学技術の基礎的素養について、体系的にまとめた報告書 (<http://www.jst.go.jp/csc/material/s4a.html>) が2008年に作成されました。本セッションでは「科学技術の智」プロジェクトを振り返り、その成果の展開等にかかる話題提供とともに新しい価値観をテーマにパネルディスカッションを行いました。当日は初等中等教育から高校・大学教育さらに社会とのつながりまで含めた教育の連携、イノベーション創出に向けた多様な学問の連携等が話題に上がり、会場を交え活発な議論が行われました。



## ■総括セッション

コーディネーター 横山広美(東京大学 准教授)  
パネラー 北原和夫(東京理科大学 教授、JST CSC 科学コミュニケーション研究主監)  
高安礼士(千葉市科学館 アドバイザー)  
高梨直紘(東京大学 特任助教)  
伊藤日出男(産業技術総合研究所 臨海副都心センター 所長代理)  
中島秀人(東京工業大学 教授)  
小泉 周(自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授、JST CSC フェロー)  
報告 長谷川奈治(JST CSC 事務局長)  
閉会挨拶 大竹暁(JST 理事)

総括セッションは、最終日11/10(土) 15:30-17:00に日本未来科学館 7階みらいCANホールにて開催され、横山広美さんのコーディネートによりゾーン報告・ワークショップ報告および総合討論が行われました。



## ゾーン報告・ワークショップ報告

ゾーン報告では、出展企画のゾーニングに関わったサイエンスアゴラ推進委員会の担当委員より、ゾーニングの意図や当日の様子などの報告がありました。まず、北原和夫さん(委員長)が出展全体を総括し、高安礼士さんより終日出展企画全般と「特設・地域連携ゾーン」および「特設・生徒発表・教員交流ゾーン」についての報告、高梨直紘さんより時間枠出展全般についての報告、伊藤日出男さんより「特設・最先端研究ゾーン」および研究機関等の出展企画についての報告がありました。また、主催企画として初日夜に出展者の参加により実施した「みんなでつくる『サイエンスアゴラの未来』」ワークショップの概要について、科学技術振興機構の長谷川奈治事務局長が報告しました。

## 総合討論

総合討論では「サイエンスアゴラ2013の成果」および「今後のサイエンスアゴラのあるべき姿」のテーマを中心に、登壇のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。横山広美さんのコーディネートのもと、各パネラーから多様な視点から課題の指摘や意見・提案がなされるとともに、来場者からもサイエンスアゴラの経緯などのコメントがなされるなど、今後の活動展開につながる討論となりました。

## 閉会挨拶

閉会挨拶では、科学技術振興機構の大竹暁理事が次回「サイエンスアゴラ2014」の開催予定(2014年11月8日(土)、9日(日)、東京・お台場地域)のほか、科学と社会の関係とあわせて「来年のアゴラにむけて」の課題・方針を披露しました。

## ■ 出展企画について

### 出展形式：終日枠と時間枠

多様な科学コミュニケーション活動の「見本市」の役割を実現するため、出展形式を終日枠と時間枠の2種類に大別して出展企画を公募しました。「終日枠」は2日間（または1日）の出展企画で、出展スペース（テーブル型・ブース型・ポスター型など）における展示や演説・実験、ワークショップなどです。「時間枠」は標準90分間の出展企画で、ホール・会議室や特設ステージなどの会場で、シンポジウム、ワークショップ、ステージ企画などを実施します。このほかに、屋外での出展企画の応募もありました。

### 公募・審査と会場ゾーニング

開催趣旨や開催方針を踏まえた企画を高く評価することを公募案内に示し、審査ポイントとして①出展の目的・ねらい、②実現性、③発展性などを登録いただきました。210企画を超える応募があり、サイエンスアゴラ推進委員会（担当委員）の選考審査でモデルケースとなる企画や、配慮を必要とする企画などをチェックして出展企画を決定しました。そして、出展者の所属分類、出展目的・対象者、出展形式・内容などに考慮して会場ゾーニングを行い、出展場所・プログラムを決定しました。

## ■ サイエンスアゴラ賞について

### サイエンスアゴラ賞

サイエンスアゴラでは、企画内容の向上や科学コミュニケーション理念の促進を図ることを目的とした「サイエンスアゴラ賞」を設けています。サイエンスアゴラ賞はサイエンスアゴラ推進委員会において選考しました。当日の出展の様子をみながら、公募書

類の査読結果、来場者投票、開催後の出展者による相互投票の結果も踏まえ選出されました。2013年はサイエンスアゴラ賞として11件を決定しました。また、来場者投票の得票数1位の企画を、来場者特別賞に決定しました。



### 産総研賞、フジテレビ賞、リソーピア賞

サイエンスアゴラ賞とは別に、共催機関・協力機関等より、「産総研賞」、「フジテレビ賞」、「リソーピア賞」が贈られました。それぞれの機関が選考を行い、各1件の受賞企画を決定しました。

### サイエンスアゴラ賞、各賞の授賞式

2013年12月26日、日本科学未来館でサイエンスアゴラ賞および各賞の授賞式を行いました。式では科学技術振興機構科学コミュニケーションセンターの毛利 衛センター長が受賞者に賞状を贈りました。受賞者は「サイエンスアゴラでは出展者どうしの交流ができた」「この受賞が今後の科学コミュニケーション活動の励みになる」と喜びを話しました。

## ■ 来場者投票結果

- 1位** Ea-401 電気理科クラブ  
再生可能エネルギーで充電する電気自動車の未来

---

- 2位** Ca-215 東京電機大学理工学部理学系物理学コース  
電気をつくる物理ゲーム館「エレキテルの広場」

---

- Ea-417 日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会  
カラマジック! 不思議な化学実験!

---

- 4位** Da-302 埼玉県立春日部工業高等学校  
ミニ新幹線の走行

---

- 5位** Aa-061 島原半島ジオパーク推進連絡協議会 がまだすドーム(雲仙岳災害記念館)  
世界に一つの岩石標本製作—ジオパークを楽しもう!

---

- Fa-506 株式会社 創造教育センター 麻布科学実験教室  
あなたもチャレンジ! おもしろ科学ランキング

## ■ 出展者相互投票結果

- 1位** Aa-027 理化学研究所仁科加速器研究センター  
新元素を発見しよう! ~アジア初の命名権獲得へ!~

---

- Aa-053 日本気象予報士会サニーエンジェルス  
気象予報士とお天気実験!

---

- Aa-088 食用昆虫科学研究会  
昆虫食を科学する~国連が認めた食料~

---

- 4位** Aa-036 東京薬科大学ゲノムサイエンス研究部  
DNAを見てみよう!

---

- Aa-064 丹波漆、京都府立大学  
ウルシの科学 —伝統工芸を科学する—

---

- Aa-085 黒ラブ教授(よしもとクリエイティブエージェンシー)  
黒ラブ教授の理系笑いライブ、(´▽`)/ブー体験版

## ■大学・研究機関など

研究者・大学・研究機関・学協会等からの出展が大幅に増加しました。公的プロジェクトや、研究者中心のNPOからの出展などもここに含まれます。「社会に支持される科学技術」や「最先端科学技術の成果の発信」を出展目的とする公的研究機関等が増加しました。また主な対象者として、これまで多かった「小学生以下」から、「中学生・高校生・高専生」や「一般人」を重視する傾向がありました。内容でも「研究者の日常をそのまま見せる」をコンセプトに研究者同士が議論したり、難解な数式を書き続ける様子をありのままに見せたり、

「わかりやすく伝える」という近年の科学コミュニケーションの対局となる新しい手法が見られました。

今回、2010-2012年度に内閣府が主催した最新の科学・技術を青少年にアピールする「科学・技術フェスタ」の参加機関からの出展企画を日本科学未来館1階に集め「特設・最先端研究ゾーン」を設置しました。そして、これと隣接した「にぎわいゾーン」では類似分野の企画を集め、「ナノテク・IT・物理」「生命科学・健康」「宇宙・環境・天気」「身近な科学時術」の分類をプログラムに掲載しました。

### Aa-015 WPI Science LIVE! (WPIサイエンスライブ!)

土方智美さん(東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構、WPI合同出展幹事)

私たち「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」では世界中から集まりWPI拠点で研究を行っている第一線の研究者によるミニレクチャー、トークセッション、実験・実演などを通して研究内容を研究者から直接伝えること、また来場者の質問にその場で答えることで研究者と来場者の皆さんのつながりを作る双方向型のプログラムを目指しました。最先端の科学の魅力や研究者の情熱が来場者の「科学って面白い!」に繋がるとともに、未来の科学者へのメッセージとして伝わっていれば大成功です。

受賞理由

世界最先端の研究拠点が連携出展し、「わかりやすく伝える」という近年の手法とは異なる、黒板を持ち込んでの「研究の現場」を感じさせる議論により、研究者の生の声を届けました。



### Aa-027 新元素を発見しよう! ~アジア初の命名権獲得へ!?

宮内成真さん(理化学研究所 仁科加速器研究センター)

当研究センターは世界屈指の原子核物理の研究所です。見えない世界の研究なので今回も出展内容には苦労しました。毎回心がけているのは原子核をいかに身近に感じられるかです。そのため、できるだけ参加型の展示を目指しています。今回目玉の一つにブースの壁一面を使って、原子核の書かれたシールを来場者に貼ってもらい核図表をみんなで作りました。6500以上にもなる原子核のシールだったので製作には苦労しました。シールを親子で協力しながら貼っている姿が多く見られ、とてもほほえましかったのが印象的でした。

受賞理由

難解と思われがちなテーマですが参加型の展示模型を工夫して、親子が協力する場面を演出するなど多くの体験者との対話を実現して、来場者投票で上位の評価を得ました。



### Aa-026 準周期パターンが拓げる新たなデザインの世界を体験!

科学芸術学際研究所ISTA

ISTAではサイエンスとアートの交流を目指して、大人も子どもも楽しく科学に親しめるような企画を実施してきました。今年は、科学的法則を応用したアート作品7点の展示、および小さなタイルや積み木から相似形の大きなタイルや積み木を作るワークショップを行いました。いずれも2011年度ノーベル化学賞を受けた準結晶研究からヒントを得たものです。来場者には非常に楽しんでいただき、それによって私たちも刺激を受けました。

受賞理由

フラクタルが作り出す幾何的なデザインを、子どもにもわかりやすいブロックを用いて紹介していました。また、スタッフも来場者に対して親切で好印象を持ちました。



### Fa-503 地上の太陽・核融合エネルギー

春日井敦さん(日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所・青森研究開発センター・核融合研究開発部門)

未来のエネルギー「地上の太陽・核融合」をテーマに、第一線の研究者が大型太陽専用望遠鏡を用いた太陽のプラズマ観察(屋外)や、核融合エネルギーの説明や実験を実施して、大勢の方々と体験を通じた対話を行うことができました。実験を何度も繰り返す子どもや、熱心に質問される高校生や大人の方も多く、反響の大きさに驚かされました。太陽観察を毎年楽しみにしているというリピーターや、サイエンスアゴラで興味を持って研究所を見学したいという方も多く、対話と参加を続ける重要性を肌で感じた2日間でした。



## ■地域の活動拠点となる機関・団体など

全国各地域における「自律的な科学コミュニケーション活動」の活性化を推進するため、出展目的に地域連携の拠点形成、地域連携活動（科学館・博物館等、地域連携拠点）を挙げた企画を集めて「特設・地域連携ゾーン」を設置しました。

出展者は地域連携展開に意欲的な市民有志・ボランティア・NPO、大学、科学館・博物館、行政府、学校など多彩です。

日頃から地域に密着した経験を生かして、どの展示企画も上手に

楽しませながら伝える対応が見られました。また、「地域連携ゾーン」として出展企画をまとめたことにより、出展者同士がお互いの展示を訪問しあい積極的に交流を行う様子が見られました。積極的な情報交換と交渉の結果、今後の連携企画をいくつも具体化することができたそうです。

これからサイエンスアゴラを軸として、情報共有と連携のネットワーク構築が期待され、これに取り組む出展者の意欲も示されました。

### Aa-104 広がりゆく科学のひろばの担い手たちー各地の科学祭をつなぐー

横山雅俊さん(第5回東京国際科学フェスティバル実行委員会)

第5回東京国際科学フェスティバル(TISF)の開催報告や理念、メインビジュアルの紹介とともに、日本全国の科学祭の取り組みやサイエンスカフェの紹介をブース展示で実施しました。併せて、未来館3F会場の出展者交流スペースにて、各地の科学祭主催者を主な対象とした交流会を実施し、理念や成果、問題意識などを共有しました。TISFだけでも盛り沢山でしたが、日本各地から持ち寄られた豊かな内容を共有することで、草の根と地域連携型の科学コミュニケーションの新たな広がりを作れたと思います。



### Aa-114 市民有志による地域科学コミュニケーション

中村一尚さん(サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊)

科学コミュニケーションを目的とした市民有志の団体である「SSH科学楽しみ隊」の紹介を行いました。結成のきっかけである「はこだて国際科学祭」や地域イベントへの独自出展を顧みながら、写真や年表のライブラリを展示用パネルとして制作し、組織の成り立ち・活動の広がりを紹介、独自出展の先駆けとなった紙飛行機の配布も行いました。科学イベント関係者をはじめ多くの方と、コンテンツの内容や展示法、ボランティア活動の問題点などの情報交換を行うことができ、活動を主観・客観の両面から見直すきっかけとなりました。



### Aa-109 地域連携を目指す名古屋大学のアウトリーチ活動

戸次真一郎さん(名古屋大学リサーチ・アドミニストレーション室、あいちサイエンス・フェスティバル事務局)

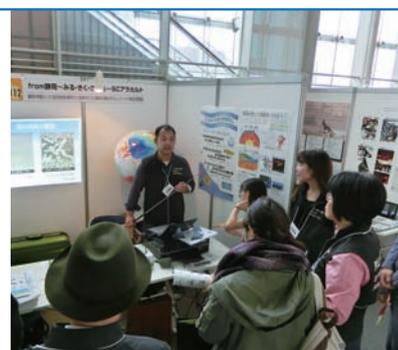
「あいちサイエンス・フェスティバル」は、自治体や科学館などとの地域連携活動を大学の研究情報発信とリンクさせた科学コミュニケーションのイベントであり、全国的にもユニークな研究アウトリーチ活動です。サイエンスアゴラでは、今年のフェスティバル開催報告とともに、研究アウトリーチの義務化にともなう研究者の支援体制構築や、地域と連携した活動展開を紹介しました。科学コミュニケーションに携わる人たちと、手法開発や今後の方向性についての情報交換や、大学の役割と地域貢献・アウトリーチについて有用な意見交換ができました。



### Aa-112 from静岡～みる・きく・さわる～SCアラカルト

代島慶一さん(静岡科学館る・くる(指定管理者:(公財)静岡市文化振興財団)及び静岡科学館科学コミュニケーター育成講座受講生)

今回の出展では、静岡科学館の科学コミュニケーター育成講座の紹介を行うとともに、講座受講生有志5名それぞれが企画したミニトーク実演を行いました。受講生にとっては、静岡よりも年齢層の高い参加者に接することができ、受講生自ら工夫した内容でうまくいったこと、うまくいかなかったことそれぞれあり、良い経験を積むことができました。また、静岡科学館にとっても、同様の取り組みを行っている、またはこれから行おうとしている方々と情報交換をすることができ、講座をブラッシュアップできる良い機会となりました。



## ■学校連携活動団体・教育関係機関など

学校教育では「学ぶ意欲」「体験の重視」「表現力」「国際性」などの課題が挙げられており、社会とのつながりを重視して、科学技術と関わる課外活動や校外連携などが推進されています。昨年からサイエンスアゴラでは「特設 生徒発表・教員交流ゾーン」を設置し、「校外機関との連携による学校活動(学校のほかに、協力機関としての活動を含む)」の登録企画を集めました。1日目に教員有志により研究者等と連携した生徒発表会と教員交流会などが開催されました。生徒は午前中に発表後、午後はリラックスして他ゾーン

を楽しみ、全員がレポートを提出しました。2日目にはJST理数学習支援センターによる企画「児童生徒の先進科学研究発表会2013」があり、多くの児童生徒・教員が参加しただけでなく、他ゾーンの出展企画も訪ねました。他ゾーンにおいても学校関係からの出展がありました。にぎわいゾーン・地域連携ゾーンでの企画や、時間枠と特設ステージでディベートやTV会議を行う企画が、学校や教育委員会、教育センター等により出展されました。

### Ca-251 アゴラ中高生ポスター発表会 Ca-255 アゴラ中高生の研究者ゾーン訪問研修

清水雅己さん(教員有志チーム、埼玉県教育委員会)

全国から約100名の中高生が参加し、39件のポスター発表を行いました。Web告知を工夫し昨年より多彩な参加者となりました。ポスター発表会の開会式では、高校生の司会で1分間ずつ発表紹介を行い、ポスター会場に移動しました。午前中、異なる学校の生徒同士が発表しあったり、参加者に英語で研究内容を紹介したり、活発な交流が行われました。午後は、発表した中高生が大学・研究機関等の出展を訪問する研修の時間を設けました。研究者の熱い思いや研究分野の広がりに触れることができ、「学校の勉強ではこのような機会はなく大変有意義だった」と好奇心と将来への意欲を高める機会となりました。



### Ca-256 アゴラ教員交流会

中山広文さん(教員有志チーム、岡山県立岡山一宮高校)

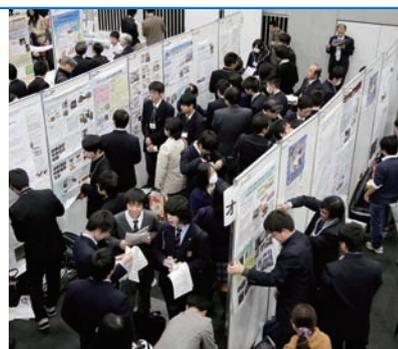
「学びは学校の中だけでは完結しない」をテーマに、教員交流会を行いました。同日の生徒発表会を引率した教員や教育関係者に加えて研究者等も参加した交流会となりました。日頃から独自プログラム開発や校外連携を実践している参加者が多く、困難を乗り越えて活動を実現する取り組み紹介に熱心に聞き入り、活発な意見交換・情報交換を行うことができました。昨年の交流会への参加経験が、岡山では複数校と博物館を巻き込んだ「博学連携」にも発展しています。今回も互いに訪問する約束ができるなど、全国的なネットワークに広がる有意義な交流会となりました。



### Ca-254 児童生徒の先進科学研究発表会2013

JST理数学習支援センター

小・中・高校生約250名が、科学研究の成果をポスター発表しました。一般来場者を含めて約650名が参加する盛大な発表会となりました。発表内容は理数全般の多岐にわたり、学校の科学部チームの活動成果を発表するグループもいれば、大学の研究室や自宅で数年に渡って行った個人研究の成果を発表する児童生徒もいました。参加した児童生徒・指導教員(科学部顧問や大学教員)間の意見交換のみならず、一般来場者との交流が積極的に行われ、特に児童生徒にとっては刺激の多い発表会となりました。今後は、ここで得た情報や気づき、人とのつながりをもとに、知的探究心がより深まっていくことを期待しています。



### Da-302 ミニ新幹線の走行

津野章久さん(埼玉県立春日部工業高等学校 機械科)

埼玉県立春日部工業高等学校の機械科では、3年生の課題研究という授業で3年ほど前から「5インチレール上で人を乗せて走行できる新幹線模型」を研究製作してきました。製品として販売できるレベルの完成度を目指して生徒達が自作した作品です。ボディの光沢感、安全性、モータの回生制御など盛りだくさんの内容にこだわって製作しています。当日は、線路の敷設・撤収、運行管理をすべて生徒が行い、研究・製作の過程も紹介しました。たくさんの方が喜んで乗車くださり、技術力を磨くやりがいにもなりました。

#### 受賞理由

試乗させるだけでなく、製作工程などの説明を高校生が自ら行って対話を深めていました。課題研究では鉄道博物館などの校外連携を推進し、社会活動にもつなげている様子がわかりました。(サイエンスアゴラ賞)  
車両制作から、設営、運用、補修、管理の全てを生徒だけで行い、大変驚かされました。たくさんの子どもを楽しませながら科学技術に興味を抱かせた、エンターテインメント性が高い出展でした。(フジテレビ賞)



## ■NPO・ボランティア・企業・各種団体など

NPO・ボランティアや企業をはじめ、学会や大学・研究機関等を含めた多種多様な出展者が、各会場での「にぎわいゾーン」で多彩なテーマを取り上げて出展しました。

出展企画を公募するにあたり、「見本市としての機能」「ハブとしての機能」に重点を置きました。その結果、科学コミュニケーション活動の実践や、地域連携など、科学コミュニケーション活動の見本となるさまざまな活動形式のモデルケースとなる企画が集結し、先進的な取り組みが紹介されました。

特に、多くの来場者を対象とした「にぎわいゾーン」では、興味を持たせて参加してもらうだけでなく、一方向の説明ではなく一緒に考え、語り合うコミュニケーションに発展させる解説方法や体験内容の工夫が見られました。

「日頃の活動」を踏まえた出展が多く、今後は出展者同士の交流を促進するとともに、他の領域の科学コミュニケーションについても情報を流通するしくみをつくることで、さらに活動が発展することが期待されます。

### Aa-053 気象予報士とお天気実験!

山本由佳さん(日本気象予報士会サニーエンジェルス)

3年前から出展しています。今回は気象現象の不思議を感じていただくための簡単な実験と気象観測機器体験をメインにした出展内容にしました。特にFNNニュースで紹介された雲を作る実験は、順番待ちの列ができるほど大人気でした。サイエンスアゴラでの全国の科学館担当者や出展者の皆様との出会いは、協働企画へ発展しつつあります。私達の合言葉「空を見上げるお母さんを増やそう!」が皆様の心に伝わったことが実感でき、活動の継続と広域での展開を目指す私達にとって心強い追い風を感じた2日間でした。

#### 受賞理由

子どもとともに保護者を対象としたアプローチがよかったです。実験を日常に結びつけて考えを深めさせ、解説型に偏らないバランスの良い対話を実現させていました。



### Aa-088 昆虫食を科学する～国連が認めた食料～

水野壮さん(食用昆虫科学研究会)

昔食べた懐かしい味。ゲテモノ。新しい味覚への挑戦。栄養食品。来場者によって異なる昆虫食へのイメージと、私たちの考える昆虫食のイメージとを対話でミックスしていくと、新しい昆虫食の意義が見えてきます。生体展示やポスター展示を見たり、試食をしたりしながら、ゆっくり語り合う場をつくることを大事にしています。毎年新しい出会いがあり、仲間も増えてきました。今回の受賞を機に、私たちの活動の幅は一層広がりました。蛹から成虫へと変態を遂げる、食用昆虫科学研究会の来年にもぜひご期待ください。

#### 受賞理由

食糧危機という世界的課題の解決方法を、実際のサンプルを用いて分かりやすく紹介していました。深刻な問題だけでなく、嗜好品としても紹介する工夫もありました。



### Aa-033 人体にとりこめ! ウェルCome噛む消化ランド

中村信彦さん(川崎学園 川崎医科大学 現代医学教育博物館)

川崎医科大学 現代医学教育博物館は、国内では数少ない医学を専門とした博物館です。サイエンスアゴラには、昨年参加しています。今年の出展では、消化について少しでも分かりやすく紹介できればと展示ブースを遊園地に見立て「消化ランド」としました。そして、胃や腸などの臓器のイラストを貼って作る消化器エプロンの工作や内視鏡カメラの操作、噛む力を体験するなど楽しみながらからだのことを学べるように工夫しました。来場した方の驚きや反応を色々と見ることができ、今後の活動の参考となりました。

#### 受賞理由

出展経験をもとに新規開発したという体験型展示と解説手法は解りやすく、科学館関係者の参考になりました。展示を用いた有機的な解説で、科学的な情報提供が充実していました。



### Aa-091 Catalysis Park 2013「触媒ってなあに?」

関根泰さん(触媒学会)

本出展は、触媒の世界を代表する大学や企業の研究者が集まる一般社団法人触媒学会が主催しました。「触媒ってなあに?」という疑問に答えるべく、入浴剤の蛍光色素合成実験やゼオライト模型作成、工業触媒に関する多くの展示を通して、触媒とは何か、何の役に立つのか、どうやってはたらくのか、を目で見て・触って・知っていただくことを狙いとしてしました。数多くの小中学生の方や保護者・一般の方にご来場いただき、興味を持っていただけたようで、一同喜んでます。

#### 受賞理由

学会として企業・大学等と連携し、日常的に行っているアウトリーチ活動が紹介されましたが、内容が大変工夫されていました。大学教員と学生の連携もよく、対話促進のための対応もよかったです。



### Da-301 みんなで考えよう!放射性廃棄物の地層処分

加藤貴子さん(原子力発電環境整備機構)

社会的課題である「高レベル放射性廃棄物の地層処分」をテーマに展示車(トレーラー)を屋外出展し、模型やパネルを使って来場者と対話しました。実験で、地層処分を使うベントナイト粘土が膨潤し水が通りにくくなると「なるほど」との声。「漠然とした不安で判断しない」「安全性と危険性を平等に知る環境を」など、アゴラ来場者の、科学的にきちんと理解し、自ら判断しようとする姿勢が強く印象に残りました。アゴラでの経験は、今後の全国展開の方向性を考えるよい機会となりました。



### Ca-216 "飛ぶ"を科学!滞空競技用ペーパーグライダーに挑戦

小松秀二さん(特定非営利活動法人 紙飛行機サイエンス)

初参加にあたり「ドキドキ、わくわく」をコンセプトに、ワークショップで揚力の実験を再構成し、特に翼上面の負圧状態の可視化に工夫を凝らしました。「これで安心して飛行機乗れます!」とお父さん、「面白かった!」とお子さんから多数いただきました。参加者数は両日で140名超ですが、更に見学者も実験に参加していただきました。その後、週末に公園に来て一緒にフライトを楽しんでいる参加者もいます。また、他出展者との情報交換も継続しています。教室のオフアワーもあり、活動の方向性を再確認できた貴重な体験でした。



#### 受賞理由

単なるペーパーグライダーの工作教室だけでなく、風洞などを利用してどうして飛行機がとぶのかを参加者に実験とともに考えさせながら解説しているのがよかったです。

### Ea-401 再生可能エネルギーで充電する電気自動車の未来

武子雅一さん(電気理科クラブ)

来場者に満足いただけたことを嬉しく感じています。今年の出展は電気理科クラブと東京工芸大学EV(電気自動車)サークルとの連携企画です。見えないが何かをする電気の不思議、電気を見る形にして楽しむ、応用した電気自動車の未来、と誰もが楽しめる企画にしました。サイエンスアゴラへの出展は3回目、昨年的人气投票は5位でした。2種類の工作実験に130名を超えるご参加をいただきました。うまく出来ない悩んだ目が、うまく出来た時澄んで輝く目になる瞬間が印象的でした。約10年間に亘る小中高の児童生徒との試行の結果です。各場(アゴラ)を繋ぐ橋として、「輝く目」を増やしていきます。



#### 受賞理由

連携企画として、見えない電気への興味や、電気自動車の未来について、長年の活動のノウハウを活かして楽しめるよう工夫していました。来場者投票で第1位の評価を得ました。

### Ea-417 カラーマジック!不思議な化学実験!

瀬田博さん(日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会)

「カラーマジック!不思議な化学実験!」ではヨウ素でんぷん反応を利用した「消える絵」、酸・アルカリによって色が変化する「色の魔法」など安全で簡単、そして楽しい化学実験を行いました。親子や中・高校生、教職を目指す大学生、小学校教員の約200名が参加、実験を体験しました。日本化学会では普段から実験教室や化学クラブ研究発表などを実施するとともに、化学工学会、日本化学工業協会、新化学技術推進協会と一緒に「夢・化学・21」の夏休み子ども化学実験ショーの開催、さらに10月23日を「化学の日」に制定するなど化学の面白さ、楽しさ、社会への貢献などを知ってもらう活動に取り組んでいます。



#### 受賞理由

学会として日頃から社会活動を展開しており、蓄積したノウハウを活かした実験企画には親子、中高生、教員など幅広い参加者がありました。来場者投票でも上位の評価を得ました。

### Ca-215 電気をつくる物理ゲーム館「エレキテルの広場」

小田垣孝さん(東京電機大学理工学部理学系物理学コース)

「物理学」ほど一般の人に嫌われる学問領域はないのではないのでしょうか?そんな物理学に、小・中・高校生だけでなく一般の方も親しんでいただけるように身近なものをを用いた物理ゲームを展示してきました。5回目の出展となる今年度は、電磁気学の基本法則のいくつかを学ぶ三つのゲームを用意しました。子どもだけでなく、ゲームに熱中する付き添いの大人も多く見られました。1日の展示でしたが、来場者に大変気に入っていただいて、とってもよい励みとなりました。



#### 受賞理由

「物理学は嫌われがち」との認識のもとに、身近な「物理ゲーム」として、子供たちだけでなく保護者も熱中させる工夫がされていました。来場者投票でも上位の評価を得ました。

## ■時間枠(シンポジウム・ワークショップ・ステージなど)の出席

時間枠の出席では、「目的意識を持った参加者が集えるホールや会議室など落ち着いた場所」を希望した企画を中心に、標準90分間の枠で、シンポジウム・ワークショップ・ステージ企画などが実施されました。

子どもや一般来場者の「人の流れ」のあるにぎわう場所では難しい、参加者とのディスカッションを深める工夫がみられました。出展者は多様で、市民有志、ボランティア・NPO団体、学会・研究機関、学校・

教育関係機関などが、それぞれ多彩なテーマ・内容で企画を出展しました。主催企画・共催機関等の企画も時間枠で実施されました。全体的な課題として出展企画ごとの「集客」があります。集客に成功した企画を見ると、事前のWeb告知での案内や受付の工夫、サイエンスアゴラ会場を回り関係ある終日出展企画にチラシを配布、高校生の参加促進を教員と連携して実施、など参加対象に応じた様々な工夫がみられ、集客手法についてのモデルケースとなりました。



### Ab-609 見て!聞いて!かがく絵本の本読み隊がやってきた!パートIV

市川雅子さん(科学読物研究会)

テーマ「光と色」に沿って、科学工作→観察→双方向の科学コミュニケーション→実演・実験→本の読み聞かせやブックトーク、というサイクルをどんどん回して、偏光板や回折格子、LEDでの光の演示などを行いました。テンポ良くオムニバス形式で、好奇心いっぱいの来場者と一緒になって科学を存分に楽しんだ90分でした。「おおっ!」との会場の反応に大感激。アゴラ出展で培ったノウハウは研究会会員の日頃の活動にもフィードバック、さらなる発展も遂げています。またアゴラで集ったほかの出展者との活発な交流の輪も広がっています。

#### 受賞理由

出展を重ね、今回は新たな出展形式で、スタッフ・参加者ともに多様な世代が絵本を通じて異分野をつなげる試みとなっていました。日頃の活動や運営方法も見本となるものでした。



### Bb-755 シンポジウム「メディアとともに考えるくすりの副作用」

佐々義子さん(くらしとバイオプラザ21)

薬の副作用に関する報道があると、患者さんや家族は不安になり、治療をやめてしまう人もいます。そこで私たちは、作成した冊子「メディアの方に知っていただきたいこと〜くすりの副作用」をもとに、シンポジウムを開きました。アゴラには初参加で不安でしたが、薬剤師、メディア、企業、患者さんなど多くの方において頂き、副作用について知り、起こった副作用情報を最大限に活用してみんなで薬を育てる「育薬」について共に考える時間を持つことができました。とても充実した経験をどうもありがとうございました。

#### 受賞理由

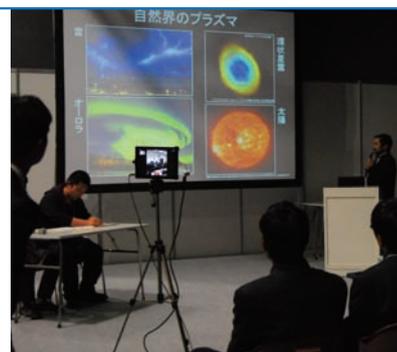
情報技術を組み合わせたコミュニケーションの可能性が示されていました。事前のイベント周知などにも工夫があり、会場がほぼ埋まる盛況ぶりでした。内容・運営方法ともに、見本となる出展企画でした。



### Ab-666 高校生によるサイエンスフェア

菅崎俊幸さん(埼玉県教育委員会)

サイエンスアゴラでの特設ステージと大宮ソニックシティに独自に設けたサテライト 会場の高校生が、TV会議で研究者と熱いディスカッションを行いました。またサテライト会場では、20校235名の高校生が科学教室や研究発表を行いました。TV会議は両会場とも高校生が司会を務めました。テーマは「エネルギー」。登壇した研究者3名(東大・筑波大・原研)の研究所を事前訪問した学校もあり、熱心に受け答えをする高校生の姿がみられました。遠方の会場からのアゴラ参加は新しい試みで、参加生徒にも興味深い体験になりました。



### Ab-662 バイオミメティクス最前線〜研究者とのワークショップ

細田奈麻絵さん(物質・材料研究機構、新学術領域「生物規範工学」)

新学術領域「生物規範工学」メンバーが最前線の研究紹介とワークショップを行いました。対話では主な対象者を高校生と位置づけ、Ca-251「アゴラ中高生ポスター発表会」などを企画出展したアゴラの「教員有志チーム」にファシリテーターをお願いしました。教育有志チームには事前の高校生への参加呼びかけやチラシ配布から連携いただきました。約50名の参加者の3割程度が高校生以下で、質問も専門的な内容や「科学者になるには」などさまざまでした。後日、生徒たちから感想文をいただき感激しました。私たちは「Aa-024生物はナノテクノロジーのアイデアの宝庫」にも出展し、デモンストレーションを含め、基礎研究から実際の製品までバイオミメティクス研究を紹介して来場者との対話を深めました。



## ■共催機関企画

### Ba-731 “科学”を“技術”に変える場所。産総研に行ってみよう!

伊藤日出男さん(産業技術総合研究所 臨海副都心センター)

(独)産業技術総合研究所臨海副都心センターでは、研究成果の展示、体験イベントそして講演会などを通して研究成果の紹介と科学への啓蒙を行いました。ロボットでは癒し系「パロ」とのふれあいや、「チョコロメテ2」の演技が注目されました。体験イベントでは「はんこ名人」、「マイクロモビリティ」や「ノボレオン」に人気が集まりました。サイエンスアゴラという場の中で開催したことで、1500名を越える来場者や出展者の皆様と交流しました。



### Cb-810 都産技研体験見学ツアー ～ものづくりの世界に触れてみよう～

秦由梨加さん(東京都立産業技術研究センター)

都産技研体験見学ツアーでは、二日間で約160名の方に、普段は見られない部屋を見学していただきました。「プラスチック成型加工室」では射出成形でできたブロックをお土産にしたり、「高電圧実験室」で雷の音に驚いたり、参加したお客さまもとても楽しんでいました。初めて都産技研に触れた方も多いと思いますが、私たちが行ったアンケートでは97%のお客さまに「また参加したい」との声をいただきました。今後も他の研究機関や大学とも交流しながら、科学を楽しむイベントでサイエンスアゴラを一層盛り上げたいと思っています。



### Ab-618 おかね道 金銭感覚の国際比較

鈴木啓子さん(国際研究交流大学村(東京国際交流館、日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター))

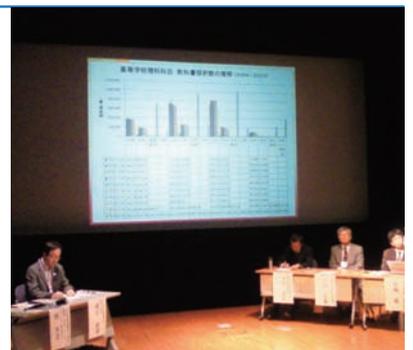
留学生、研究者と科学コミュニケーターが協力して、お金と幸せの関係について考えるパネルディスカッションを行いました。日本を含むアジアと欧米から約50名が参加し、国を超えた多様な意見を交換しあいました。“科学コミュニケーションの場づくり”として、聴衆全体への質問や意見を聞くなど、双方向の対話を心がけました。社会科学に言及した内容であることが参加者に評価され、今後の活動のトピックとして、この視点を取り入れていきたいと考えています。



### Ab-603 シンポジウム 高校で学ぶべき「サイエンス」とは?

梶秀彦さん(主催:日本学術会議、共催:(独)科学技術振興機構、日本科学教育学会、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会、(公社)日本天文学会、日本地学教育学会)

中等教育が抱える課題の解決に向けて、日本学術会議をはじめ関係機関・団体が横断的に議論を始めるためのキックオフイベントとして開催しました。次期学習指導要領改訂に向けて、科学技術立国として必要な科学力のさらなる向上、および理工系大学に進学しない高校生にとっても魅力的かつエッセシャルズな「サイエンス」を満たすことを目指し、高校生全員必修の高校理科共通科目の可能性とその中身について多角的に議論しました。次回の改定に向けては、分野間の時間の取り合いではなく「どんな能力を身に付けるのか?」という視点で考えることや、社会に開かれた議論に基づく次の改訂作業の重要性が参加者間で確認されました。



### Cb-850 みんなの2030年

山本智子さん(内閣府)

青少年の科学技術への関心を深めることを主な目的として、若手や女性研究者による講演・セッションを実施しました。研究者の方々の話はいへん好評で「自分の進路の役に立った」「自分も研究者の先生たちのように楽しいことで研究をやりたい」という感想が寄せられました。また、アフタートークとしてセッションの後に青少年と研究者が直接交流する時間を設け、青少年が研究者に日々の学習や進路について直接質問したり相談したりする場面も見られました。内閣府では、引き続き次世代の科学技術イノベーションを担う若い世代の人材育成を推進していきます。



## A会場

### 日本科学未来館



出展者名については、以下のように略出展者の正式名称、共催、後援等の情上のプログラムをご参照ください。  
 [例]大学共同利用機関法人自然科学 →国立天文台

各会場の展示内容については、終日業よびタイムテーブルに記載しております。それぞれ右の内容を表します

7F



3F



1F



## B会場

### 産業技術総合研究所臨海副都心センター

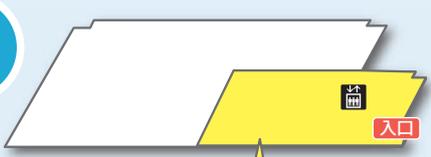
本館 4F



別館 11F



本館 1F



別館 1F



“科学”を“技術”に変える場所。産総研に行ってみよう!



▲本館



## F会場

### フジテレビ



称で掲載しております。  
報につきましては、Web  
学研究機構立天文台

**Ab-XXX**  
会場名 企画番号

出展形態  
a→終日楽しめる出展  
b→時間枠出展(タイムテーブル)



### C会場 東京都立産業技術研究センター

**5F**  
時間枠出展 C会場 5F  
講堂 食堂

**2F・M2F**  
時間枠出展 C会場 2F  
特設 生徒発表・教員交流ゾーン C会場 M2F  
イノベーションハブ

**1F**  
にぎわいゾーン C会場 1F  
エントランスホール 入口

### D会場 シンボルプロムナード公園

B会場 B会場 A会場 E会場

総合受付1 総合受付2

屋外展示スペース にぎわいゾーン D会場 (屋外)

### 湾岸スタジオ

会場 1F

### E会場 東京国際交流館

**1F**  
入口  
にぎわいゾーン E会場 1F

**3F**  
時間枠出展 E会場 3F・4F  
国際交流会議場 メディアホール

終日楽しめる出展

## A会場

### 日本科学未来館



## A-1階 コンセプト展示

000 サイエンスアゴラポスターデザイン  
筑波大学芸術系 田中佐代子研究室

## A-1階 特設 最先端研究ゾーン

### 最先端研究開発支援プログラム (FIRST)

001 これが世界最先端のがん放射線治療です  
白土博樹プロジェクト (北海道大学)

002 ヒトの心を生み出す脳の仕組みを解明する!  
岡野栄之プロジェクト (理化学研究所)

### 世界トップレベル 研究拠点プログラム (WPI)

008 みんなでつくる未来像:iCeMS発の科学から考える  
京都大学 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)

009 病気を診断・治療する未来の材料“スマートポリマー”  
物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA)

### 先端研究開発

016 理論物理の研究現場をのぞいてみよう!  
理化学研究所

017 未来を変える!バイオテンプレート技術に挑戦  
東京工業大学 フロンティア研究機構 ERATO 彌田超集積材料プロジェクト

003 量子のふしぎを使って、最先端の技術を生み出す!!  
山本喜久プロジェクト (国立情報学研究所)

004 体験!「パワエレ」 クリーン・エネルギーの「心臓」部  
木本恒暢プロジェクト (産業技術総合研究所)

005 省エネルギー・スピントロニクス論理集積回路の研究開発  
—スピントロニクス素子の体験実験に参加しませんか?—  
大野英男プロジェクト (東北大学)

010 驚くべきゴムの世界!3つの不思議を体感せよ  
東北大学原子分子材料科学高等研究機構 (AIMR)

011 数学・物理学の最先端研究で宇宙の謎を解き明かせ!  
東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構連携 (Kavli IPMU)

012 世界トップレベルの免疫学研究に触れてみよう!  
大阪大学免疫学フロンティア研究センター (IFReC)

018 見る・触れる 原子核の世界  
日本原子力研究開発機構

019 環境・エネルギーの今日と明日を支える先端材料  
物質・材料研究機構 (NIMS)

020 海から地球の不思議を解き明かす  
海洋研究開発機構

006 免疫を探る~最先端の免疫研究の紹介~  
審良静男プロジェクト (大阪大学)

007 効率100%!有機材料で電気を光に変換の秘密!  
安達千波矢プロジェクト (九州大学)

013 広がる可能性!一夢の新エネルギーシステム—  
九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I<sup>2</sup>CNER)

014 「ぶんし」「すいみん」「ちぎゅう・せいめい」のカガク  
名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM)、筑波大学国際統合  
睡眠医学研究機構 (IIS)、東京工業大学地球生命研究所 (ELSI)

015 WPI Science LIVE! (WPI サイエンスライブ!)  
AIMR・Kavli IPMU・IFReC・I<sup>2</sup>CNER・IIS・ELSI・ITbM  
共通発表ブース

022 環境浄化、病気の診断・治療に役立つ  
磁性ナノ粒子の開発  
NEXTプログラム 並木禎尚プロジェクト

023 未来を担う革新的次世代繊維  
福井大学産学連携研究開発推進機構産学連携本部 堀 昭夫  
福井大学産学連携研究開発推進機構 URAオフィス



### A-1階 にぎわいゾーン

#### ナノテク・IT・物理

- 024 生物はナノテクノロジーのアイデアの宝庫  
新学術領域「生物規範工学」
- 025 最先端工学の世界をのぞいてみよう!  
東京大学生産技術研究所
- 026 準周期パターンが拡げる  
新たなデザインの世界を体験!  
科学芸術学際研究所ISTA

#### 生命科学・健康

- 033 人体にとりこめ! ウェルCome噛む消化ランド  
川崎学園 川崎医科大学現代医学教育博物館
- 034 今ある薬を有効に利用しよう!  
(がん予防の観点から)  
国立がん研究センターがん予防研究分野
- 035 Technology: The power for future  
理化学研究所ライフサイエンス  
技術基盤研究センター
- 036 DNAを見てみよう!  
東京薬科大学ゲノムサイエンス研究部
- 037 細胞だから!  
理化学研究所 神戸キャンパス

#### 宇宙・環境・天気

- 048 お台場にやってきました!科学ライブショー「ユニバース」  
学生ボランティア集団ちもんず
- 049 3次元ホログラフィック表示システム及び  
3Dディスプレイ装置  
京都工芸繊維大学
- 050 宇宙100の謎  
名古屋大学 宇宙100の謎プロジェクトチーム
- 051 いつでも・どこでも・だれでも天体観測  
慶應義塾大学 インターネット望遠鏡プロジェクト(慶應義塾大学自然  
科学研究教育センター)、山形県立鶴岡南高等学校

#### 身近な科学技術

- 061 世界に一つの岩石標本作製—ジオパークを楽しもう!  
島原半島ジオパーク推進連絡協議会  
がまだすドーム(雲仙岳災害記念館)
- 062 富山でツクル・ツナガル、カガクの輪  
サイエンスカフェとやま
- 063 ジオパークで地球の息吹を感じよう  
~岩石標本づくり~  
ジオパーク下仁田協議会
- 064 ウルシの科学 —伝統工芸を科学する—  
丹波漆、京都府立大学

- 027 新元素を発見しよう!  
~アジア初の命名権獲得へ!  
理化学研究所仁科加速器研究センター
- 028 カーボンナノチューブのできるしくみを考える  
京都産業大学
- 029 パソコンで音を改造しよう!  
~エフェクター作り~  
ソラオト
- 030 インターネットが切り開く森のミライ  
東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻斎藤研究室  
サイバーフォレスト研究チーム

- 038 なぜ?なに?ホントは身近な「遺伝子組換え」  
農業生物資源研究所  
広報室・遺伝子組換え研究推進室
- 039 タバコとがん~知っているようで知らない科学~  
国立がん研究センターがん対策情報センター  
たばこ政策研究部
- 040 生物学教育に生かす日本語バイオポータルサイト  
情報・システム研究機構  
国立情報学研究所
- 041 たんぱく質のかたちを調べると何がわかるの?  
Protein Data Bank Japan(日本蛋白質構造データバンク)
- 042 つら~い痛みを「ハリ」で制す!? —そのとき体は?  
東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科
- 043 天然からの贈り物~抗生物質の発見と生合成  
「生合成マシナリー」総括班(文部科学省新学術領域研究)

- 052 身の周りの自然放射線を測ろう  
~X線・γ線・宇宙線~  
慶應義塾大学 日吉物理学教室
- 053 気象予報士とお天気実験!  
日本気象予報士会サニーエンジェルズ
- 054 地球を支える緑の不思議 光合成博士にきいてみよう!  
日本光合成学会 若手の会
- 055 4D2U/MITAKAで宇宙の中の自分を体感しよう  
金沢工業大学 サイエンスコミュニケーションプロジェクト
- 056 すすめ!チリメンモンスター!!  
半魚人倶楽部

- 065 SC活動の情報交換~サジタリウス広場  
学術コミュニケーション支援機構
- 066 「うご図」でアウトリーチ!~新しい発信方法の提案~  
「うご図」アウトリーチプロジェクト
- 067 身近なところに不思議がいっぱい  
埼玉県立浦和東高等学校SciencePartnershipProject
- 068 親子で本気の理科実験  
理科教育研究フォーラム
- 069 ソーラーモンキーをつくろう!  
東京都立産業技術研究センター

- 031 เมนデルレーエフさんのテーブルの上で  
日本コンピュータ学会
- 032 物質と結晶のふしぎ  
マイクロフォトスタジオ ねこのてぶくろ亭



- 044 健康を科学する。血管年齢を測ってみよう!  
東京有明医療大学保健医療学部柔道看護学科
- 045 コンピュータで探る健康や環境浄化に関わる遺伝子  
長浜バイオ大学
- 046 運動疲労と食・スポーツフーズ  
京都府立大学大学院生命環境科学研究所
- 047 脳科学を支えるニッポンの技術  
文部科学省 脳科学研究戦略推進プログラム

- 057 宇宙エレベータークライマー製作・実験教室  
日本大学理工学部精密機械工学科
- 058 星空の知識を試そう  
星空宇宙天文検定協会
- 059 宇宙から来る電波を観測しよう  
山口大学時間学研究所
- 060 水資源問題解決の一手法  
築市楽画

- 070 “科学”を“技術”に変える場所。産総研に行ってみよう!  
産業技術総合研究所臨海副都心センター
- 071 自律分散するボールによるベアリング500年目の変革  
株式会社 空スペース
- 072 有機ゆるぎやからカードゲームで対戦しませんか?  
デザイン四つ葉
- 073 PETボトルでリサイクル繊維を取り出そう  
資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」
- 074 東日本大震災と地震・津波防災を考えよう  
任意団体TRIONES

## 終日楽しめる出展

### A-1階 にぎわいゾーン(つづき)

- 075 巨大科学技術とまちの未来  
—原子力とともに生きること  
コミュニティ研究会
- 076 エネルギーのハローワーク  
ソーシャルテクニカ
- 077 りかぼんカフェってなあに  
りかぼんカフェ
- 078 中・高科学部連合による科学の発信  
都立富士高等学校・都立富士高等学校附属中学校  
科学探究部

### 飲食スペース

### オリエンテーションルーム1・2

- 089 ケムステ出張版!「広がる化学の世界」  
化学ポータルサイトChem-Station(ケムステ)
- 090 「体験!化学実験」 活動紹介&実験体験  
首都大学東京 TMU-SFC

- 079 理科読をはじめよう  
理科読をはじめよう実行委員会
- 080 庵治石加工における科学の恩恵と技術継承  
大川等
- 081 暗黒通信団数理数系MLへの誘い  
暗黒通信団
- 082 Personal Cosmos  
Personal Cosmos プロジェクトチーム
- 083 サイエンスコミュニケーションクエスト  
日本サイエンスコミュニケーション協会(UASC)若手の会

- 088 昆虫食を科学する～国連が認めた食料～  
食用昆虫科学研究会
- 091 Catalysis Park 2013「触媒ってなあに?」  
触媒学会
- 092 日本技術士会20部門で知る身近な科学技術  
日本技術士会
- 093 生活・産業と外来生物  
～自然共生社会を考える～  
生物多様性保全協会・日本技術士会 環境部会

- 084 大学再発見!～キャンパスは大きなミュージアム～  
名古屋大学 ミュージアム活性化プロジェクトNUMAP
- 085 黒ラブ教授の理系笑いライブ、(´▽`)ブー体験版  
黒ラブ教授(よしもとクリエイティブエージェンシー)
- 086 ビスケットによるプログラミング入門  
NTTコミュニケーション科学基礎研究所
- 087 えれめんトランプ たいけんバトル!  
元素周期表同好会

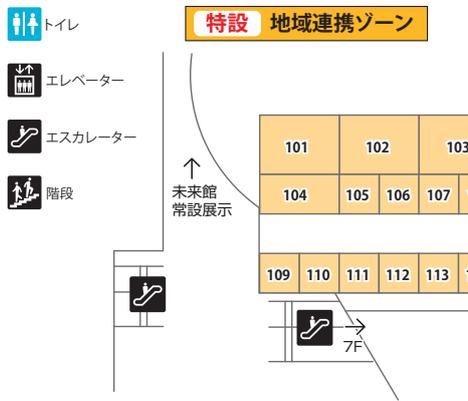


- 094 光ファイバー・ソーラー通信の  
電子工作とロボットとの会話  
日立技術士会
- 095 不思議科学工作:大人から  
幼児まで科学の面白さ体験  
慶應技術士会

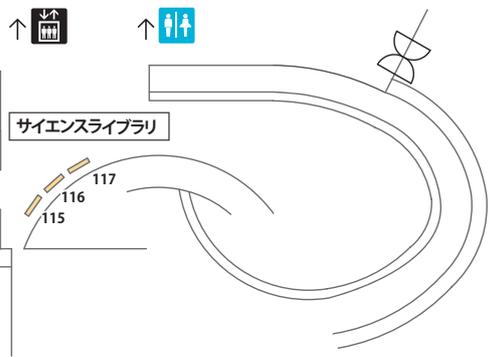
### A-3階 特設 地域連携ゾーン

### サイエンスライブラリ

- 101 科学でつながる地域サイエンスネットワーク作り  
埼玉県立川越高等学校スーパーサイエンスハイスクール
- 102 地域や外部機関との連携による  
学習・研修モデルの構築  
埼玉県立総合教育センター
- 103 香川から科学の達人を  
かがわ源内ネットワーク
- 104 広がりにく科学のひろばの担い手たち  
—各地の科学祭をつなぐ—  
第5回東京国際科学フェスティバル実行委員会
- 105 転校生は、科学技術  
—あなたはどうつきあう?—  
日本科学未来館
- 106 環境と学校とミュージアムをつなぐ新手法  
(計画と実践)  
株式会社 マイクロミュージアムラボラトリー
- 107 学生のサイエンスコミュニケーションを紹介します  
サイエンスリンク事務局
- 108 明治～昭和期における科学技術教育資料の世界  
学術資源リポジトリ協議会
- 109 地域連携を目指す名古屋大学のアウトリーチ活動  
名古屋大学リサーチ・アドミニストレーション室  
あいちサイエンス・フェスティバル事務局
- 110 千葉市内3館園連携企画「ちばバードプロジェクト」  
千葉市科学館、千葉県立中央博物館、千葉市動物公園



- 111 すぎなみの「理科移動教室」って知ってる?  
杉並区立科学館
- 112 from静岡～みる・きく・さわる～S C アラカルト  
静岡科学館るくる(指定管理者:静岡市文化振興財団)  
及び静岡科学館科学コミュニケーター育成講座受講生
- 113 新北海道科学技術振興戦略及び  
サイエンスパーク等の紹介  
北海道総合政策部科学 | T 振興局科学技術振興課
- 114 市民有志による地域科学コミュニケーション  
サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊
- 115 まちなかで科学体験!  
—コロンブスの卵プロジェクト—  
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 116 ひろげよう、つなげよう、科学館・博物館の輪  
全国科学館連携協議会



- 117 北陸地域の市民協働型  
科学コミュニケーションの8年間  
梅田泰直(北陸先端科学技術大学院大学)、小林俊哉(九州大学)



## A-7階 にぎわいゾーン

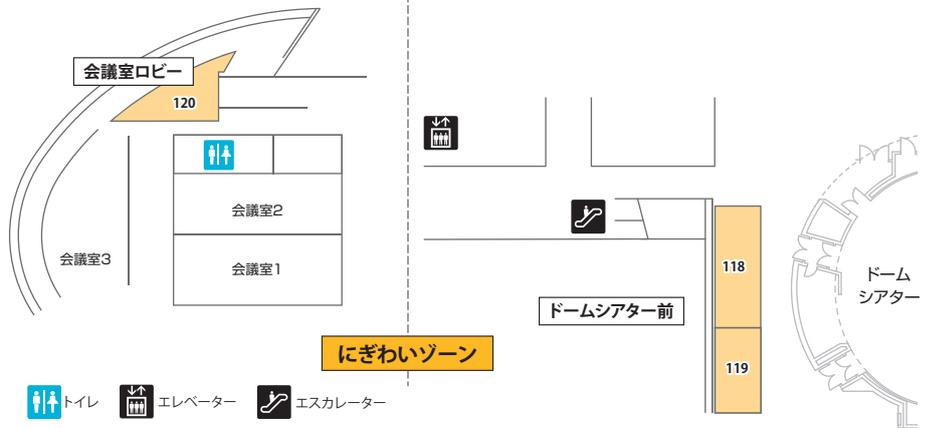
### ドームシアター前

**118** 図形と空間の不思議  
～敷き詰め模様で遊ぼう!  
日本テッセレーションデザイン協会

**119** 「ケミストリークエスト」体験会  
ケミストリークエスト株式会社

### 会議室ロビー

**120** 科学の心 日本の心 (塗りの科学)  
裏千家インターナショナルアソシエーション



## B会場

### 産業技術総合研究所臨海副都心センター

#### 本館1階・別館1階

**731** “科学”を“技術”に変える場所。産総研に行ってみよう!  
産業技術総合研究所 臨海副都心センター

## C会場

### 東京都立産業技術研究センター

## C-1階 にぎわいゾーン

**201** ご冗談でしょう、ファインマンさん  
緑町一番街プロジェクト 代表 亀井佑二

**202** “最強”の動物をつくろう  
ジャパンGEMSセンター

**203** 放射線教育などの教材の研究と開発  
早稲田大学本庄高等学校

**204** ヒトは変わった霊長類?  
生物学からみた私たち人間  
日本人類学会教育普及委員会

**205** サイエンス・ビブリオバトル  
SF文学振興会

**206** 回転する実やたねの不思議  
名古屋市立植田北小学校 鈴木英文

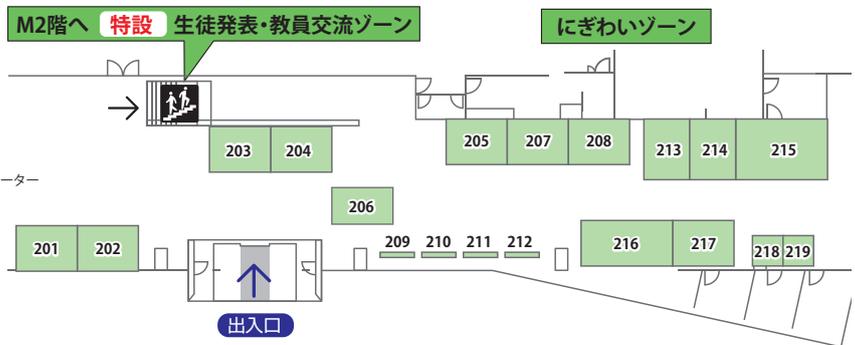
**207** リサーチ・アドミニストレーター  
～科学と社会をつなぐ人々～  
福井大学産学官連携研究開発推進機構 URAオフィス

**208** 矢印画廊  
佐藤 実

**209** “ベットボル・トラス競技”(“ベットラ”)  
早稲田摂陵中学校・高等学校 生物研究部  
水虫先生と仲間たち

**210** 中大連携科学教室 ルミネッセンスアメーバ  
愛知工業大学 中野研究室

**211** サイエンス&次世代エネルギー in いばらき  
つくばサイエンスツアーオフィス  
茨城県科学技術振興財団



**212** 神奈川県立横浜修徳高等学校  
科学部活動紹介  
神奈川県立横浜修徳高等学校 科学部

**213** 東北大学サイエンス・エンジェルーリケジョの夢ー  
東北大学女性研究者育成支援推進室「杜の都女性研究者  
ハードリング支援事業」サイエンス・エンジェル

**214** ぐんま☆じゅとく☆みんなでサイエンスる☆  
樹徳高等学校 理科部

**215** 電気をつくる物理ゲーム館「エレキテルの広場」  
東京電機大学理工学部理学系物理学コース

**216** “飛ぶ”を科学!  
滞空競技用ペーパーグライダーに挑戦  
紙飛行機サイエンス

**217** 「みんなのぎもん」  
理科ハウス

**218** 理系?文系?何でも系?～学問の垣根を越えて～  
新潟大学男女共同参画推進室  
サイエンス・セミナーグループ“新大Wits”

**219** つくばScience Edge 2014  
つくばScience Edge 2014 実行委員会



## 終日楽しめる出展

### C-M2階 特設 生徒発表・教員交流ゾーン

- 251 アゴラ中高生ポスター発表会  
教員有志チーム

---

- 252 東海大学付属高輪台高等学校SSH活動報告  
東海大学付属高輪台高等学校

---

- 253 IINAサイエンスプロジェクト  
未来のエネルギーについて考えよう   
埼玉県立伊奈学園総合高等学校IINAサイエンスプロジェクト

---

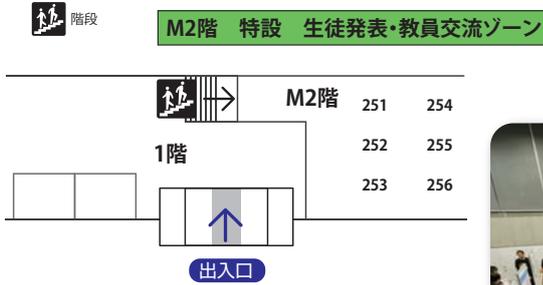
- 254 児童生徒の先進科学研究発表会2013  
科学技術振興機構理数学習支援センター

---

- 255 アゴラ中高生の研究者ゾーン訪問研修  
教員有志チーム

---

- 256 アゴラ教員交流会  
教員有志チーム



## D会場

### シンボルプロムナード公園

### D-屋外 にぎわいゾーン



### 屋外

- 301 みんなで考えよう!放射性廃棄物の地層処分  
原子力発電環境整備機構

---

- 302 ミニ新幹線の走行  
埼玉県立春日部工業高等学校

---

- 303 “ペットボトル・トラス競技”(“ペットラ”)  
早稲田摂陵中学校・高等学校 生物研究部  
水虫先生と仲間たち

---

- 304 日本大学国際救助隊による災害復興、  
教育支援のための学生絆プロジェクト  
日本大学



# E会場

## 東京国際交流館

### E-1階 にぎわいゾーン

#### エントランスホール

**401** 再生可能エネルギーで充電する電気自動車の未来  
電気理科クラブ



**402** かがく緑日パートVI

科学読物研究会



**403** “ふだん着で科学を”2013

“ふだん着で科学を”2013 実行委員会



**404** トーン君の1日 ～身近にある音の不思議～

東海大学 Science Supporting Experiment



**405** 気づきと発見を大切に～学生サークルによる環境教育～

千葉大学園芸学部学生サークルHGC (Human Green Coordinator)

千葉大学園芸学研究所 三島孔明



**406** 理系学生のための英語教育～CLIL指導の研究

千葉大学大学院教育学研究科(英語教育)

Izumi Hayano Kobayashi (はやのん)



**407** ゲームで学ぼう!エコライフ

環境研究会かわさき



**408** 摩訶不思議!! おもしろカガク工作を作って遊ぼう!!

東京工業大学 公認サークル 東工大ScienceTechno



**410** リングキャッチャーに挑戦!

科学講座研究会

サイエンスインストラクター 丹羽孝良



受付

トイレ

エレベーター

エスカレーター

階段



**411** 算数パズルで遊ぼう

算数パズルクラブ



**412** 世界は磁石でできている!?

ものの磁性を考えよう!!

東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCAST



**413** ソーラーブランコを作ろう

国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校電気情報工学科

**414** 染め物のしおりを作ろう!

青空理科実験教室 農かがく



**415** 正多面体って以外と面白い…作ってみよう

正多面体クラブ 関野展寿



**416** ドーム映像で「いのち・細胞」を体験しよう

株式会社 アイカム



**417** カラーマジック!不思議な化学実験!

日本化学会 教育・普及部門

普及交流委員会



# F会場

## フジテレビ湾岸スタジオ

### F-1階 にぎわいゾーン

#### 多目的ホール

**501** ネオピア電子ブロックを使った電子回路の体験

株式会社 丸越



**502** われたらばざる

資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」



**503** 地上の太陽・核融合エネルギー

日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所/

青森研究開発センター/核融合研究開発部門



**504** エコが見えるすごろく

資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」



**505** 地球のカケラ『DOPAS』で恐竜を描こう!

国土防災技術株式会社



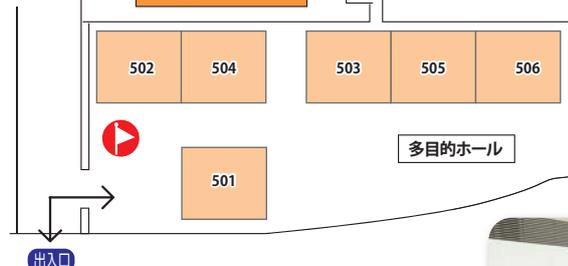
**506** あなたもチャレンジ! おもしろ科学ランキング

株式会社 創造教育センター 麻布科学実験教室

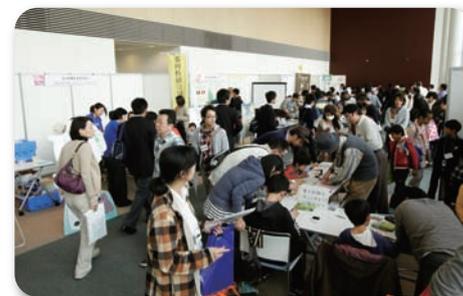


受付

にぎわいゾーン



多目的ホール



# 出展企画

ALL DAY EXHIBITION

## 11.9 (sat) 時間枠出展タイムテーブル

A会場 日本科学未来館		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
1F	特設ステージ		Ab-616 10:30-12:00 国連が薦める昆虫食～昆虫を食べる時代がいつにやってくる～ 食用昆虫科学研究会	Ab-617 13:00-14:30 UNI-CUB実証実験成果報告 日本科学未来館
7F	みらいCANホール			Ab-602 13:00-14:30 ポッドキャストで地域を越えた科学コミュニケーション インターネットラジオ局くりらじ
	イノベーションホール みんなで作るWS		Ab-604 10:20-12:00 WS1 つくるコミュニケーション「最高の問い」セッション 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター	Ab-605 13:00-14:30 WS2 つくるコミュニケーション「自分ゴトの問い」セッション 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
	交流サロン		Ab-607 10:30-13:30 理科に国語は必要!?親子で理科が好きになる語彙検定 福井大学 教育地域科学部 浅原雅浩 (ほか学生数名)	
	会議室1		Ab-609 10:30-12:00 見て!聞いて!かがく絵本の本読み隊がやってきた!パートIV 科学読物研究会	Ab-610 13:00-14:30 不思議!川の水を用いて振動反応が!! 桜美林大学 リベラルアーツ学群 非線形化学研究室
	会議室2			Ab-612 13:00-14:30 若者に発信する日本学術会議:<知の航海>シリーズから 日本学術会議
	会議室3		Ab-614 10:30-13:30 エネルギーの利用を体験しよう 科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部	

B会場 産業技術総合研究所 臨海副都心センター		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
本館 4F	第1会議室			Bb-712 13:30-14:30 地震の国にくらすー過去から学び、備えようー 産業技術総合研究所 臨海副都心センター
別館 11F	多目的室		Bb-701 10:30-12:00 ひとあしお先に出席者交流会 サイエンスアゴラ出席者有志	Bb-702 13:00-14:30 宿題～21世紀の科学の教科書 STS研究サークルFRD
	会議室1		Bb-704 10:30-12:00 生きもののあるまちづくり(生物多様性は必要か?) 女性技術士の会	
	会議室2		Bb-706 10:30-12:00 サイエンスアゴラを歩こう! コミュニティ研究会	Bb-707 13:00-14:30 トークライブ・映画で語るサイエンス 粥川準二・斉藤勝司
	会議室3		Bb-711 11:00-12:00 みんなで行ってみよう!ー産総研臨海センターの見どころ、聞きどころー 産業技術総合研究所 臨海副都心センター	Bb-709 13:00-14:30 ドルトンさんのアトムから時を超えて 日本コンピュータ化学会

C会場 東京都立産業 技術研究センター		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
1F	エントランス			Cb-810 11:30-12:30 13:30-14:30 14:30-15:30 15:30-16:30 都産技研体験見学ツアー ～ものづくりの世界に触れてみよう～ 東京都立産業技術研究センター
2F	研修室244 (M2階奥)		Cb-803 10:30-12:00 学会アウトリーチ担当者のセッション 学会アウトリーチ担当有志	
5F	講堂	Cb-801 10:00-12:00 アゴラ生徒発表会開会式・生徒発表会 教員有志チーム 10:30-生徒発表会はM2階イノベーションハブで実施		Cb-802 U22科 科学技術
	531会議室		Cb-804 11:00-12:00 13:30-14:30 15:00-16:00 カラフルなオリジナルコースターをつくろう! 東京都立産業技術研究センター	

E会場 東京国際交流館		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
4F	会議室3		Ea-417 10:00-17:00 カラマジック!不思議な化学実験! 日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会	

…子ども向け …教育関係者向け …科学コミュニケーター向け

…11/9(土)のみ

…ポスター …展示・実演 …実験・工作 …対話型ワークショップ …ショー・講演 …実費あり

…11/10(日)のみ

…シンポジウム・トークセッション …ワークショップ・サイエンスカフェ

15:30-17:00		17:30-	
Ab-618	15:30-17:00 おかね道 金銭感覚の国際比較 国際研究交流大学村(東京国際交流館、日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター)		
Ab-603	15:30-17:00 シンポジウム 高校で学ぶべき「サイエンス」とは? 日本学会会議		
Ab-606	15:30-17:00 WS3 ポスト3・11の科学コミュニケーションを問う 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター	Ab-619	17:30-19:30 WS4 サイエンスアゴラの未来 サイエンスアゴラ出展者限定 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
Ab-611	15:30-17:00 サイエンスカフェ「えねるぎいっ亭(エネルギーイッティ)」 法政大学 自然科学センター		
Ab-613	15:30-17:00 科学・技術でわかること、わからないことPart III 日本学会会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会		
Ab-615	14:30-17:00 公開シンポジウム 自然に学ぶ新しいものづくり バイオテンプレート研究会		



15:30-17:00	
Bb-713	15:00-16:00 業を知り尽くす—ロボットやコンピュータも使いこなしたMolprofの挑戦— 産業技術総合研究所 臨海副都心センター
Bb-703	15:30-17:00 「地球に生きる素養」って何?—対話で考える、私と地球の付き合い方— 日本学会会議 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会
Bb-705	14:30-17:00 本音で語る生命倫理—動物実験なぜ必要?なぜ反対?— 横山雅俊(市民科学研究室)、山本伸(サイコムキャリア)、#phdjp科学と社会ワーキンググループ
Bb-708	15:30-17:00 「こども科学オリンピック」親子の絆で科学技術を育てる ニコニコ科学研究所
Bb-710	15:30-17:00 「比べる」からはじめる科学コミュニケーション 日本シミュレーション&ゲーミング学会



15:30-17:00	
14:00-17:00 学者からの児童生徒へのメッセージ2013 振興機構 理数学習支援センター	



15:30-17:00	
-------------	--

<h2>A会場 最先端研究ゾーン</h2>	<p>Aa-015 14:45~ WPI Science LIVE! 「夢の分子の登場」電気一光 変換 100%!」 安達千波矢(九州大学<sup>1</sup>CNER主任研究者)ほか</p>
<h2>D会場(屋外)東京国際交流館前</h2>	<p>12:00~13:30 サイエンスマーケット</p>

## 11.10 (sun) 時間枠出展タイムテーブル

A会場 日本科学未来館		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
1F	特設ステージ		Ab-665 10:30-12:00 SSH高校生ディベート「iPS細胞」 岐阜県立岐阜農林高等学校 生物工学科	Ab-666 13:00-14:30 「高校生によるサイエンスフェア」 埼玉県教育委員会
	みらいCANホール			Ab-652 13:00-14:30 科学技術のあたらしい伝えかた 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
7F	イノベーションホール みんなでつくるWS		Ab-654 10:30-12:00 WS5 科学屋台～直接科学に会いにいこう～ 「つくる、つながる、つかう」プロジェクト、科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター	Ab-655 13:00-14:30 WS6 情報の救急箱としてのミドルメディアは可能か ミドルメディア実行委員会、科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
	交流サロン		Ab-657 10:30-12:00 曇気楼(しんきろう)を手作りしよう！サイエンスはアートだ！ 夏目雄平	Ab-658 13:00-14:30 カードで学ぼう 「感染症ってなんですか？」 理化学研究所 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
	会議室1		Ab-660 10:30-12:00 もしも地球惑星科学で科学コミュニケーションするなら Universal Earth (ユニアス)	Ab-661 13:00-14:30 逆はありませんか？ 電子部品の意外な素顔を見る センス・オブ・センシング
	会議室2		Ab-662 10:30-12:00 バイオメティクス最前線～研究者とのワークショップ 新学術領域「生物規範工学」	Ab-663 13:00-14:30 元素検定2013 ～元素クイズに挑戦しよう！～ 元素周期表同好会
	会議室3		Ab-609 10:30-12:00 見て聞いてかか！絵本の読本隊がやってきた！パートIV 科学読物研究会	Ab-664 13:00-14:30 はやのん理系漫画制作室 漫画で科学コミュニケーション はやのん理系漫画制作室

B会場 産業技術総合研究所 臨海副都心センター		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
本館 4F	第1会議室			Bb-771 13:00-16:00 未来の交通手段 マイクロモビリティを操縦してみよう 産業技術総合研究所 臨海副都心センター
別館 11F	多目的室		Bb-751 10:30-12:00 めざせ風つかい！セーリングカーを作ってみよう 東京学芸大学有志団体 RIKAI-Commu.	Bb-752 13:00-14:30 科学コミュニケーション活動の評価を考える 科学コミュニケーション研究会
	会議室1		Bb-754 10:30-12:00 ヒトで学べば高校の生物学はもっと楽しい！ 日本人類学会教育普及委員会・東京都生物教育研究会	Bb-755 13:00-14:30 シンポジウム「メディアとともに考える くすりの副作用」 くらしとバイオプラザ2.1
	会議室2			Bb-756 13:00-14:30 使いやすい研究費を求めて 科学技術振興機構 JST-PO研修院

C会場 東京都立産業 技術研究センター		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
1F	エントランス			Cb-810 11:30-12:30 13:30-14:30 14:30-15:30 15:30-16:30 都産技研体験見学ツアー ～ものづくりの世界に触れてみよう～ 東京都立産業技術研究センター
5F	講堂		Cb-850 10:30-12:00 みんなの2030年 内閣府	Cb-851 13:00-14:30 部活動で理数の力を高めよう～科学部顧問の討論会～ 科学技術振興機構 理数学習支援センター 連携学習担当
	531会議室		Cb-852 10:30-11:30 13:00-14:00 15:00-16:00 ペットボトルで掃除機をつくってみよう 東京都立産業技術研究センター	

E会場 東京国際交流館		10:00	10:30-12:00	13:00-14:30
3F	国際交流会議場		Eb-950 10:30-12:00 科学技術の智：分野を超えて新しい価値観をつくる 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター	
	メディアホール		Eb-951 10:30-13:30 広報官というお仕事 ～職業としての科学コミュニケーションはどこへ向かうのか～ 科学技術広報研究会 (JACST)	
4F	会議室1		Eb-953 10:30-12:00 高校生脳クイズ大会 脳クイズ王に挑戦だ！ 日本神経科学学会、脳の世紀推進会議、科学技術振興機構、科学コミュニケーションセンター(小泉エネット)	Eb-954 13:00-14:30 若手研究者たちと考える、君達の、そして日本の未来 日本学術会議 若手アカデミー委員会
	会議室3		Ea-417 10:00-17:00 カラマジック！不思議な化学実験！ 日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会	

	15:30-17:00
Ab-653	15:30-17:00 総括セッション 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
Ab-656	15:30-17:00 WS7 のぞく かかく～あなたの見てない、いつもの世界～ 総合研究大学院大学学術推進センター、科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
Ab-659	15:30-17:00 ゲーム脳VS 脳トレ 結局ゲームは勉強の敵?味方?? みけねこサイエンスプロジェクト
Ab-611	15:30-17:00 サイエンスカフェ「えねるぎいっ亭(エネルギーイッテイ)」 法政大学 自然科学センター
Ab-607	15:30-17:00 理科に国語は必要!?親子で理科が好きになる語彙検定 福井大学 教育地域科学部 浅原雅浩 (ほか学生数名)



	15:30-17:00
Bb-753	15:30-17:00 ジオパークとユネスコエコパーク ジオツーリズム研究会



	15:30-17:00
--	-------------



	15:30-17:00
Eb-952	14:30-17:00 子供の才能をどう育てるか～大学等での事例から 科学技術振興機構 理数学習支援センター



<b>A会場 最先端研究ゾーン</b>	Aa-015 15:00～15:30 WPI Science LIVE! 「睡眠・覚醒の謎に挑む」 柳沢正史(筑波大学ⅢS拠点長)ほか
<b>D会場(屋外)東京国際交流館前</b>	12:00～13:30 サイエンスマーケット

## ■来場者の皆さまより

- ほぼ全ての出し物が科学を分かりやすくアウトリーチする工夫がなされていて素晴らしい!(60代男性、技術開発・研究系)
- 色々なテーマの科学を分かりやすく、親しみやすい説明をしていて楽しかったです。数学を題材にした話があると良かったかなと思います。(20代男性、大学院生)
- 楽しい企画が沢山あって、一日では足りません。子どもも参加体験できるよう、分かりやすく熱く解説してくれたので、親子で楽しめました。高校生の理系の息子も小学生の娘も大満足でした。(40代女性、子ども連れ)
- 大人でも参加できる実験を増やしてほしい。(40代男性、技術開発・研究系)
- 予備知識がなくても、科学に接し気軽に質問できる機会がとても良いと思いました。(30代女性、子ども連れ)
- せっかくのブース、たくさんあり過ぎて回りきれません。夏休みなど長期休みにテーマごとに分けて開催するなどもう少し考えられると良いと思います。とっても楽しかったので、みんな回りじっくりプレゼンテーションを聞きたかったです。(50代女性)
- 職業としての科学コミュニケーションについて、色々とお話を伺えて良かったです。参加型のシンポジウムもとても楽しかったです。(30代女性、技術開発・研究系)
- パンフレットが多数あり戸惑った。1枚で地図、案内の載っているようなものがあると分かりやすい。子ども向け、大人(専門職)向けが、はっきり分かれていた方が良かった。(30代女性、子ども連れ)
- 科学に普段、あまり馴染みのない人が楽しく科学に接することの出来る素晴らしい企画だと思います。今後も絶やさず続けて下さい。(20代男性、技術開発・研究系)
- 日本の技術力は世界のトップレベルにあると思っています。その技術力が本当に社会に生かされているのか疑問に思っていたのですが、ここに来て研究者と話ができて非常に有意義でした。できればこういう広場を常設してほしい。(70代以上男性)

## ■出展者の皆さまより

- 科学の知識が半端じゃない小学生が何人かいた。こういう子どもが日本の将来を背負うのだと実感した。子ども、頑張れ!そして私も頑張らなければならない。
- 交流会を通じて、昨年度アゴラ場で出会った方々と再会できただけでなく、来館者やほかの出展者との交流の輪が広がったことが大変うれしかった。
- サイエンスコミュニケーションの分野に、本格的に参入する決意が固まりました!
- 小学生、高校生、親子連れ、専門家など幅広い市民が参加してくれた。市民に私たちが行っている研究の面白さ、大切さを伝えることや、意見交換ができて有意義であった。
- 子どもの理系の能力を伸ばすことに関心のある多くの大学関係者や学校関係者、一般の生徒にも参加してもらうことができればなおよかった。
- 今年も活気があり素晴らしかったです。シフトを組んで他の会場に行ったり、近くのブースの出展者との会話を楽しんだりできました。回を重ねるごとにアゴラの楽しみ方のバリエーションが増えました。
- 来場者だけでなく、出展者も楽しいイベントです。高校生に話したときが一番楽しかったな。高校生もっと来てね。
- 科学コミュニケーション能力のスキルアップを目指して出展しました。ほかのブースの内容、プレゼンテーションなど、大変参考となりました。
- 準備も大変でしたが、その苦労が吹き飛ばすほどのたくさんの笑顔に出会えて充実した気持ちです。出展を通して出展団体内の交流も深めることができて良かったです。
- 子どもから高齢者まで楽しんでもらえました。中には「人生で一番感動した」と評していただいた方もあり、出展=製作スタッフも元気をもらいました。
- 多くの方と科学の楽しさ、面白さを共有することは大きな喜びでした。子どもたちの驚きに見開かれた大きな目や、大人の「楽しかった!」の声にやりがいを感じました。アゴラは毎年楽しみにしている、年に一度の大きなイベントです。日頃の私たちの活動の集大成を發揮できる場であるとともに、ほかの出展者や参加者から多くのことを学ぶ場でもあります。アゴラのご縁のもとに、アゴラ以外の場でも活発に相互交流して、私たちの活動の輪は大きく広くなりました。参加者に過去のブックリストや内容のレジュメが欲しいと言われたので、今までアゴラに参加した内容を小冊子にまとめようかとも話しています。アゴラがこれからもますます発展してずっと続いていきますように祈っています。
- 科学に興味がある方が出展者、来場者の中心ですが、興味のない方、たまたまお台場に遊びに来た方が科学に関心を持って「科学とのファースト出会い」の場になることも願っています。社会のコミュニケーションの場になると素敵だと思います。
- 全体的にはすごく良かったと思います。現実的には難しいのかもしれませんが、もっと会場が集約されていたら、さらに盛り上がったと思います。

## みんなでつくる7連続ワークショップ「WS4サイエンスアゴラのみらい」Ab-619より

科学技術振興機構は、サイエンスアゴラ出展者限定のワークショップを開催しました。科学の楽しさを「伝える」、科学についての対話や議論を行うことでよりよい社会を「つくる」ために、サイエンスアゴラという場が果たす役割について皆で一緒に考えました。

### なんで出展しているんだろう

- 研究のアウトリーチ
- 世の中への貢献
- 人との出会い(交流)
- 他の人の工夫を見たい
- 実績づくり

### アゴラらしさって何?

- 人との出会い
- 出展者同士の刺激
- “疑問”をもってもらう
- 実験的なことができる
- 出展者、来場者を含めた「ぐちゃぐちゃ感」:多様性

### 将来こんなアゴラになるといいな

- 地方にもアゴラを
- 出展者同士で内覧会、もっと出会いを
- 展示にこだわらない(ネットアゴラなど)
- 企業の積極的な出展
- カップルにも来てほしい(魅力の多様化)



## ■ご協力者紹介

田中佐代子さん (筑波大学芸術専門学群 准教授)

サイエンスアゴラ2013のチラシ・ポスターデザインを、筑波大学芸術専門学群2年生対象「ビジュアルデザイン演習A」の授業課題として、2013年4~5月に行いました(授業担当:田中佐代子)。受講者は41人でした。サイエンスアゴラ事務局によるワークショップ、アイデアスケッ

チの作成、最終デザインのプレゼンテーションというプロセスを経て、最終的に大石望未による「カメと子ども」のイラストレーションをキービジュアルとしたデザインが採用されました。(右写真:授業でのワークショップ風景)

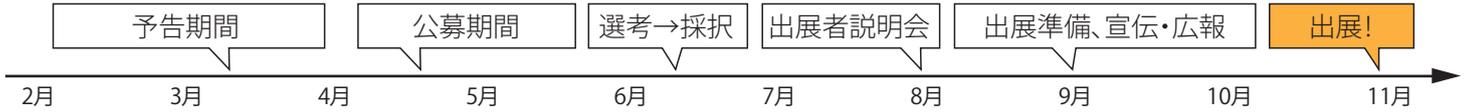


## ■サイエンスアゴラを「進化」させましょう

次回(2014年)、第9回を迎えるサイエンスアゴラでも出展企画の公募を計画しています。サイエンスアゴラは、多様な科学コミュニケーション活動の「見本市」の役割を果たしています。サイエンスアゴラを皆さんと一緒に進化させよう。今、私たちは一人ひとりが科学技術とどうかかわり、何を選擇していくかが問われています。科学への理解や楽しさを「伝える」ためのコミュニケーションとともに、よりよい社会を

「つくる」ためのコミュニケーションを広げたいと考えています。そして、サイエンスアゴラでの交流が開催当日だけでなく、皆さんの日頃の活動においても新たな連携活動に発展し、全国各地域における自律的な科学コミュニケーションの活性化につながることも期待しています。開催主旨・開催方針をご理解の上、ぜひ出展をご検討ください。

### サイエンスアゴラ2014出展タイムライン



## ■サイエンスアゴラ 2013 出展者にうかがいました!

### "つながった"相手やいきさつについて

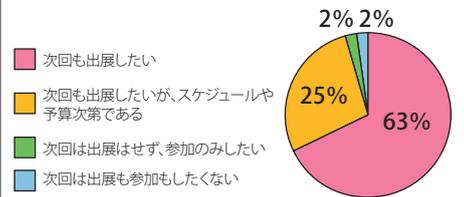
- 自分の出展ブース近くで出展していた違う分野の研究者と、お互いの研究に興味を持ち、説明をしあいました。
- 青森からいらしゃった方で、同じような活動をおひとりでやっていました。私たちの実験手法などを説明し、どんな実験をやっているかなどの意見交換をしました。
- ワークショップで出会った人にブースをたずねてもらえて、話が広がった。近接したブースの方と知り合う機会が多かった。
- 3歳児の親御さんが頬を真っ赤にして「科学ってこんなに面白いんですね。3歳のわが子がこんなに好奇心をもってワクワクしている姿を初めて見た。嬉しかった。来年も絶対に来ます!」とわざわざ言いに来て下さいました。90分間、最前列で熱心に参加して下さいました親子さんです。私も、「科学を楽しむ時間を共有して、伝わった、つながった」と嬉しくなりました。このような事例がほかにもあり、喜びとやりがいを感じました。
- 科学イベントに参加する場を探している方たちにつながった。来場者に「私たちの活動」を知っていただけ次回開催時の集客につながった。科学イベントの開催成果の展示、実演への参加を通して興味を持ってもらえた。
- 私たちは、農家さんの知恵と科学を合体させて実験を行う理科教室を行なっています。活動に関心を持って下さった小学校関係者から「実験教室を小学校で行なってほしい」という依頼を受け、つながる事ができました。

## ■次回出展・参加者へのメッセージ

- 百聞は一見にしかず。プロセスとその場を共有すれば、サイエンスマインドが全開。世紀の発見は自己発見から。
- ♪ 踊るあほうに見るあほう同じアホならおどらにヤソソソ♪と歌の文句がありますが、サイエンスに従事しているなら、出展参加し多くの人達とコミュニケーションを取るべきです。
- 意外な出会いが、新しいアイデアを生みます。ぜひ参加を!
- これだけの場所で一般人が発表できる機会はなかなかありません! チャレンジする価値あります!
- 問題意識を共有できる方々と出会うことのできる、貴重な場です。
- サイエンスアゴラは、大人から子どもまで、理系・文系関係なく、みんなと一緒にサイエンスを楽しむことのできる国内最大級のサイエンスコミュニケーションイベントです。
- たくさんの知識や好奇心に出会える貴重な場所です。出展者も来場者のように楽しむこともできるので、来年もぜひ参加したいと思います。
- たくさんの方やサイエンスに出会えるチャンス! 初めてでもすべては挑戦からはじめてみよう。
- 人がいて、はじめてアゴラであり、科学コミュニケーションであると思います。人を大切にしたい出展を心がけましょう。

### 次回出展の意向

「次回のサイエンスアゴラは2014年11月8日(土)~9日(日)を予定しています。出展の意向をお聞かせください。」(N=92)



## 編集後記

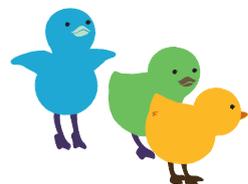
事務局として至らぬ点もありましたが、出展者の方々や関係者の方々、そしてご来場者のおかげで無事に会期を終えたこと、感謝します。そしてこの経験を次回に活かします。[TK:カンフーパンダ]

今年もさらに多様な価値観の参加者・関係者の皆さんに出会えました。感動すること、感謝すること、学ぶこと、反省することも多くありました。日頃の活動や連携展開においても、アゴラからのつながりが深まることを期待しています。[NI]

初めてサイエンスアゴラに関わりました。出展者の皆様の熱い思いを受け止めて、事務局を務めさせて頂きました。多くの皆様に支えてもらい、たくさんの方を連れて何となく2日間を乗り切ることが出来ました。ありがとうございました。[HO]

今年は参加者同士の「つながり」を深めることを目的に運営を進めてまいりました。少しでも皆様のお役に立てましたら幸いです。戴いたご意見は今後のアゴラをよりよくするための糧としたい所存です。ご参加いただき本当にありがとうございました。[SK]

「『科学コミュニケーション』って何だろう。そもそも私は文系…」なんて考える間もなく、アゴラ事務局に所属しました。「知らないことを知って楽しい!」感想は、これに尽きます。出展された皆様、様々な「科学」の発信を、ありがとうございます。[MO]



## INDEX

サイエンスアゴラとは	2-3
広報一覧	4-5
データ集	6-7
セッション報告	8-17
会場案内	18-19
出展企画	20-29
皆さまの声	30
2014へのお誘い	31

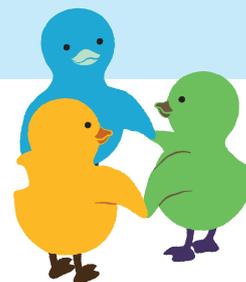
「サイエンスアゴラ(科学のひろば)」は、  
次回もあなたを待っています!

**サイエンスアゴラ2014(予定)**

2014年11月8日(土)~9日(日)

東京・お台場地域にて開催

<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>



**サイエンスアゴラ**2013